

## 高校2年生 現代文 年間指導計画表

### 日大クラス

教科目(単位数)	3単位
年間目標	1年次の学習内容に基づき、より難解な評論や小説を読み解く力を身に付ける。
使用教科書	東京書籍『精選 現代文B』
使用補助教材	

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学期	前半	◇評論の読解	『「身銭」を切るコミュニケーション』  『ミロのヴィーナス』	◇評論文や随筆を読んで、筆者の着眼点や論理展開を正確に把握する。また、文中に提起されている抽象度の高い問題についても関心を持ち、自ら考えることで思考力を養う。 ◇筆者の視点を知ることで、物事の多角的な見方を養い、新たな思考力を養う。
	後半	◆小説の読解	『山月記』	◆描かれた場所・状況、作中人物の心理等小説を的確に読み取り、読む楽しさを実感させる。 小説の読解により、描かれた人生の真実や人間の生き方について考える姿勢を持つ。 ◆難語句の意味理解、作中人物の心理などを的確に読み取り、主題を検討する力を育成する。
2 学期	前半	◇評論の読解  ○詩歌の鑑賞	『科学的「発見」とは』  『未確認飛行物体』 『竹』	◇評論文の論理的読解の定着を意図し、論理的な把握による趣旨の読解力を磨く。 ○詩歌の表現上の特色を理解し、言葉の響きを味わうことで、韻文としての特徴を理解する。 詩歌の表現内容の理解から主題の読解へ、更に鑑賞へと発展させる。
	後半	◇評論の読解	『日本人の美意識』 『情報社会のパラドックス』	◇評論の読解を通して筆者の着眼点や論理展開をたどり、主旨を的確に把握する力を養う。
3 学期		◇評論の読解	『消費されるスポーツ』	◇難解な用語等を含めた1年間の総復習を行い、正確な論理展開の把握と趣旨を読解する力を身に付ける。
		◆小説の読解	『こころ』	◆近代文学の代表的作品を読み、その優れた表現を味わい、小説を読む楽しさを実感させる。

評価方法	・1学期、2学期は第1次と第2次試験の平均で、3学期は学期末試験一回で、それぞれ平常点を加味して評価します。
------	--------------------------------------------------------

学習方法	・評論に関しては複雑な論理展開や、難解な語句を含む文章を読むことに慣れ、文意を正確に理解することを中心に学習していきます。小説も同様に、内容を正確に読み進めながら、登場人物の心情や情景描写に着目して読むことで、主題の把握を目指します。更には読み味わうことも大事にしていきます。
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

注意事項	・思考は言葉によってなされます。従って、語彙の正確な理解と、「何が、どうである」という事柄の確実な把握は非常に重要です。そこに論理性が加わることで思考力が磨かれます。その観点から、国語の授業では、授業の対象となっている事柄に対し、その関連や比較・対応などの関係を理解するよう常に頭を働かせる、積極的な授業参加を大事にしてください。なお、授業作品は繰り返し読むこ
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	・短期の場合は、その時に学習している単元、次に取り組む単元の予習復習をノートにして提出しましょう。長期の場合はHPで連絡します。
-----------------------	------------------------------------------------------------------

高校2年生 現代文 年間指導計画表

他大クラス

教科目(単位数)	3単位
年間目標	1年次の学習内容に基づき、より難解な評論や小説を読み解く力を身に付ける。問題演習を通し、入試に必要な読解力も養う。
使用教科書	東京書籍『精選現代文B』
使用補助教材	

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学期	前半	◇評論の読解  ●問題演習	『「身銭」を切るコミュニケーション』 『ミロのヴィーナス』	◇評論文や随想文を読んで、筆者の着眼点や論理展開を正確に理解する。また、評論文に提起されている抽象度の高い問題についての関心を持ち、自ら考える力を養う。 ●問題演習を通して、論理展開について問われる点や、解答作成の方法について学ぶ。
	後半	◆小説の読解  ◇評論の読解  ●問題演習	『山月記』  『科学的「発見」とは』	◆描かれた場所・状況、作中人物の心理唐小説を的確に読み取り、読む楽しさを実感させる。 小説の読解により、描かれた人生の真実や人間の生き方について考える姿勢を持つ。 ◇難語句の意味理解、作中人物の心理などを的確に読み取り、主題を検討する力を育成する。 ●問題演習を通して、論理展開について問われる点や、解答作成の方法について学ぶ。
2 学期	前半	◇評論の読解  ○詩の鑑賞  ●問題演習	『相手依存の自己規定』  『未確認飛行物体』 『竹』	◇評論文に対して自己の見解を加えながら読み、内容の定着と深化・発展をはかる。 ○詩歌に表された言葉のはたらき表現上の特色を理解し、鑑賞力を高める。短詩型文学の独自性を理解し、豊かな表現力を養う。 ●問題演習を通して、論理展開について問われる点や、解答作成の方法について学ぶ。
	後半	◇評論の読解  ◆小説の読解  ●問題演習	『日本人の美意識』 『情報社会のパラドックス』 『藤野先生』	◇評論の読解を通して筆者の着眼点や論理展開をたどり、主旨的確に把握する力を養う。 ◆小説の特徴を確認し、シチュエーションの設定を的確に捉え、主題を読解する。更に作者の独創的な物の見方や特色ある表現を味わう。 ●問題演習を通して、論理展開について問われる点や、解答作成の方法について学ぶ。
3 学期		◇評論の読解  ◆小説の読解  ●問題演習	『消費されるスポーツ』 『環境問題と科学』  『こころ』	◇難解な用語等を含めた1年間の総復習を行い、正確に内容と論理展開を把握する力を身に付ける。 ◆近代文学の代表的作品の優れた表現を読み味わい、小説を読む楽しさを実感させる。 ●問題演習を通して、論理展開について問われる点や、解答作成の方法について学ぶ。

評価方法	・1学期、2学期は第1次と第2次試験の平均で、3学期は学年末試験一回で、それぞれ平常点を加味して評価します。
------	--------------------------------------------------------

学習方法	・評論に関しては難解な表現や複雑な論理展開の文章を読むことに慣れ、文意を正確に押さえることを中心として学習していきます。小説も同様に内容を正確に読み進めながら、登場人物の心情や情景描写にも着目して読むことで、主題の把握を目指します。更には読み味わうことも大事にしていきます。
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

注意事項	思考は言葉によってなされます。従って、語彙の正確な理解と、「何が、どうである」という事柄の確実な把握は非常に重要です。そこに論理性が加わることで思考力が磨かれます。その観点から国語の授業では、授業の対象となっている事柄に対し、その関連や比較・対応などの関係を理解するよう常に頭を働かせる、積極的な授業参加を大事にしてください。なお、授業作品は繰り返し読むことが必要で
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	短期の場合は、その時に学習している単元、次に取り組む単元の予習復習をノートにして提出しましょう。長期の場合はHPで連絡します。
-----------------------	-----------------------------------------------------------------

## 高校2年生 古典 年間指導計画表

### 日大クラス

教科目(単位数)	3単位
年間目標	敬語法と1年次の学習内容を理解した上で、より難解な文章を読解していく。(古文) 1年次の内容に加えて、句法についても理解し、より難解な文章を読解する力を養う。(漢文)
使用教科書	三省堂『精選 古典B』
使用補助教材	①第一学習社『ニューエイジ古典 必修2』 ②浜島書店『史伝・思想に学ぶ 必須句法』 ③桐原書店『基礎から学ぶ解析古典文法 演習ノート』 ④いづな書店『わかる・読める・解ける 古文単語330』※②～④はすべて1年次に購入済。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	◆古文の学習  ○漢文の学習	◆歌物語「大和物語」 ◆文学史—歌物語・伝奇物語(復習)  ○必須句法より「再読文字」「否定形」の復習	◆平安時代の歌物語に触れて、和歌の力や着眼の清新さを知る。 高校1年で学習した文法内容の復習と文章読解への応用。 ○漢文の読解を確認するとともに、登場人物の考え方、句法の意味を確認させる。
	後半	◆古文の学習  ○漢文の学習	◆随筆「徒然草」「枕草子」 ◆文学史—随筆文学  ○必須句法より「使役形」「受身形」の復習	◆平安・鎌倉時代の随筆に触れ、人のものの見方、感じ方を知る。自然に対する観察眼の鋭さに気付かせる。 ○漢文の読解を確認するとともに、登場人物の考え方、句法の意味を確認させる。
2学期	前半	◆古文の学習  ○漢文の学習	◆日記「更級日記」「蜻蛉日記」 ◆文学史—日記文学・評論  ○必須句法より「疑問形」「反語形」の復習	◆現代人の心情とも共通する点があるところに着目させ、日記文学の理解を深める。 ○漢文の読解を確認するとともに、登場人物の考え方、句法の意味を確認させる。
	後半	◆古文の学習  ○漢文の学習	◆歴史物語「大鏡」・評論「無名草子」 ◆文学史—歴史文学  ○必須句法より「漢詩の形式」の復習	◆歴史物語の特質と面白さを知ると共に、王朝貴族の生き様について深く理解する。 また古典における評論理解を深める。 ○近体詩の復習および内容を理解する。 また句法の意味を理解する。
3学期		◆古文の学習  ○漢文の学習	◆物語「源氏物語」 ◆文学史—物語文学  ○必須句法より「比較形・選択形・抑揚形」	◆平安物語文学最高峰の作品の一端に触れ、後宮の様子と王朝貴族の確執を読み取る。 複雑な敬語表現に注意して読解する。 ○漢文の読解を確認するとともに、登場人物の考え方、句法の意味を確認させる。

評価方法	・1学期、2学期は第1次と第2次試験の平均で、3学期は学年末試験一回で、それぞれ平常点を加味して評価します。
------	--------------------------------------------------------

学習方法	・古文に関しては、1年次に学習した用言の活用と助動詞についての内容を基礎として進めていきます。もし、それが完全でない場合には、早めに総復習をしておいてください。 ・漢文では内容読解とともに重要句形の学習を中心として進めていきます。
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

注意事項	・ただ受動的に授業を聞くのではなく、常に頭を働かせて積極的に授業に参加していくことを大事にしてください。
------	------------------------------------------------------

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	・短期の場合は、その時に学習している単元、次に取り組む単元の予習復習をノートにして提出しましょう。長期の場合はHPで連絡します。
-----------------------	------------------------------------------------------------------

## 高校2年生 古典 年間指導計画表

### 他大文系クラス

教科目(単位数)	3単位
年間目標	敬語法と1年次の学習内容を理解した上で、より難解な文章を読解していく。(古文) 1年次の内容に加えて、句法についても理解し、より難解な文章を読解する力を養う。(漢文)
使用教科書	三省堂『精選 古典B』
使用補助教材	①啓隆社『古典の演習2』 ②浜島書店『史伝・思想に学ぶ 必須句法』 ③桐原書店『基礎から学ぶ解析古典文法 演習ノート』 ④いづな書店『わかる・読める・解ける 古文単語330』※②～④はすべて1年次に購入済。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学期	前半	◆古文の学習  ○漢文の学習	◆歌物語「大和物語」 ◆文学史—歌物語・伝奇物語(復習)  ○必須句法より「再読文字」「否定形」の復習 ◎演習問題	◆平安時代の歌物語に触れて、和歌の力や着眼の清新さを知る。 高校1年で学習した文法内容の復習と文章読解への応用。 ○漢文の読解を確認するとともに、登場人物の考え方、句法の意味を確認させる。
	後半	◆古文の学習  ○漢文の学習	◆随筆「徒然草」「枕草子」 ◆文学史—随筆文学  ○必須句法より「使役形」「受身形」の復習 ◎演習問題	◆平安・鎌倉時代の随筆に触れ、人のものの見方、感じ方を知る。自然に対する観察眼の鋭さに気付かせる。 ○漢文の読解を確認するとともに、登場人物の考え方、句法の意味を確認させる。
2 学期	前半	◆古文の学習  ○漢文の学習	◆日記「更級日記」「蜻蛉日記」 ◆文学史—日記文学・評論  ○必須句法より「疑問形」「反語形」の復習 ◎演習問題	◆現代人の心情とも共通する点があるところに着目させ、日記文学の理解を深める。  ○漢文の読解を確認するとともに、登場人物の考え方、句法の意味を確認させる。
	後半	◆古文の学習  ○漢文の学習	◆歴史物語「大鏡」・評論「無名草子」 ◆文学史—歴史文学  ○必須句法より「漢詩の形式」の復習 ◎演習問題	◆歴史物語の特質と面白さを知ると共に、王朝貴族の生き様について深く理解する。 また古典における評論理解を深める。 ○近体詩の復習および内容を理解する。 また句法の意味を理解する。
3 学期		◆古文の学習  ○漢文の学習	◆物語「源氏物語」 ◆文学史—物語文学  ○必須句法より「比較形・選択形・抑揚形」 ◎演習問題	◆平安物語文学最高峰の作品の一端に触れ、後宮の様子と王朝貴族の確執を読み取る。 複雑な敬語表現に注意して読解する。 ○漢文の読解を確認するとともに、登場人物の考え方、句法の意味を確認させる。

評価方法	・1学期、2学期は第1次と第2次試験の平均で、3学期は学年末試験一回で、それぞれ平常点を加味して評価します。
------	--------------------------------------------------------

学習方法	・古文に関しては、1年次に学習した用言の活用と助動詞についての内容を基礎として進めていきます。もし、それが完全でない場合には、早めに総復習をしておいてください。 ・漢文では内容読解とともに重要句形の学習を中心として進めていきます。
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

注意事項	・ただ受動的に授業を聞くのではなく、常に頭を働かせて積極的に授業に参加していくことを大事にしてください。
------	------------------------------------------------------

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	短期の場合は、その時に学習している単元、次に取り組む単元の予習復習をノートにして提出しましょう。長期の場合はHPで連絡します。
-----------------------	-----------------------------------------------------------------

高校2年生 日大進学文系世界史B 年間指導計画表

教科目(単位数)	日大進学文系世界史B(2単位)
年間目標	高校1年で学んだ東洋史の流れを踏まえて、古代から近代までの西洋史を学習し、高校3年で学習する近現代史を理解するための基礎知識を養成する。また、受験に向けて高校1年の既習事項を復習する。
使用教科書	詳説世界史 山川出版社
使用補助教材	詳説世界史10分間テスト 山川出版社 ニューステージ世界史詳覧 浜島書店

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	第1章 オリентと地中海世界 2 ギリシア世界 3 ローマ世界	エーゲ文明 ギリシアのポリス世界 ヘレニズム時代 古代ローマ史 キリスト教の成立	ギリシアのポリス世界、ローマ帝国による地中海世界の統一が西洋史の出発点となったことを理解させる。 歴史地図等を用いて地理的に把握させる。
	後 半	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 1 西ヨーロッパ世界の成立 2 東ヨーロッパ世界の成立	ゲルマン人の大移動 フランク王国とその分裂 第二次民族移動 封建社会の成立 ビザンツ帝国	ゲルマン人の大移動が中世ヨーロッパ世界形成の端緒となり、フランク王国の分裂で今日のドイツ・フランス・イタリアの基礎ができたことを理解させる。 ビザンツ帝国の歴史的意義を理解させる。
2 学 期	前 半	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 3 西ヨーロッパ中世世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化 第7章 アジア諸地域の繁栄 1 東アジア世界の動向 2 清代の中国と隣接諸地域	十字軍運動 中世ヨーロッパ各国史 中世ヨーロッパ文化史  明代の中国 清代の中国	中世ヨーロッパ各国の歴史を教皇権との関連を踏まえて理解させる。  プリントを用いて、明・清代の中国史を概観させる。その際、ヨーロッパ諸国との外交・文化の関わりに留意する。
	後 半	第7章 アジア諸地域の繁栄 3 トルコ・イラン世界の展開 4 ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展 第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 1 ヨーロッパ世界の拡大 2 ルネサンス 3 宗教改革	ティムール朝・オスマン帝国・サファヴィー朝 ムガル帝国  大航海時代 ルネサンス ドイツ・スイス・イギリスの宗教改革 対抗宗教改革	プリントを用いて、13世紀以降のイスラーム史を概観させる。高校1年で学習した範囲とのつながりに留意する。  大航海時代(経済・社会面)・ルネサンス(文化面)・宗教改革(宗教面)が近代ヨーロッパ始まりとなったことを理解させる。
3 学 期		第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 4 ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の成立 第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 1 重商主義と啓蒙専制主義 2 ヨーロッパ諸国の海外進出 3 17～18世紀のヨーロッパ文化と社会	主権国家体制の成立  重商主義・啓蒙専制主義・イギリス革命 第二次英仏百年戦争 17～18世紀のヨーロッパ文化	近代ヨーロッパの主権国家体制が今日の国際関係の端緒を形成していく課程を概観させる。  西洋史中心の見方にとらわれないように注意する。

評価方法	定期試験の成績による。小テストや提出課題を平常点に加味することもある。
------	-------------------------------------

学習方法	初めて学ぶことが多いと思われるので、授業後の復習が大切である。その際、授業内容を踏まえて教科書を精読し、補助教材を用いて問題演習をする。できなかったところを再び教科書やノートに戻って復習する。これを繰り返すことにより知識の定着を図ってほしい。特に世界史で受験を考えている者は、高校1年の既習範囲も含めてなるべく早く受験準備に取りかかってほしい。
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

注意事項	近代に関しては西洋史だけでなく、明・清代の中国史及びオスマン帝国・ムガル帝国などの東洋史も扱う。また、高校1年で学習した東洋史の範囲も適宜復習していく。
------	------------------------------------------------------------------------------

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	『詳説世界史10分間テスト』の既習の範囲をノートにやる。
-----------------------	------------------------------

## 高校2年生 他大進学文系世界史B 年間指導計画表

教科目(単位数)	他大進学文系世界史B(2単位)
年間目標	高校1年で学んだ東洋史の流れを踏まえて、古代から近代までの西洋史を学習し、高校3年で学習する近現代史を理解するための基礎知識を養成する。また、受験に向けて高校1年の既習事項を復習する。
使用教科書	詳説世界史 山川出版社
使用補助教材	詳説世界史10分間テスト 山川出版社 ニューステージ世界史詳覧 浜島書店

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	第1章 オリентと地中海世界 2 ギリシア世界  3 ローマ世界	エーゲ文明 ギリシアのポリス世界 ヘレニズム時代 古代ローマ史 キリスト教の成立	ギリシアのポリス世界、ローマ帝国による地中海世界の統一が西洋史の出発点となったことを理解させる。 歴史地図等を用いて地理的に把握させる。
	後 半	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 1 西ヨーロッパ世界の成立  2 東ヨーロッパ世界の成立	ゲルマン人の大移動 フランク王国とその分裂 第二次民族移動 封建社会の成立 ビザンツ帝国	ゲルマン人の大移動が中世ヨーロッパ世界形成の端緒となり、フランク王国の分裂で今日のドイツ・フランス・イタリアの基礎ができたことを理解させる。 ビザンツ帝国の歴史的意義を理解させる。
2 学 期	前 半	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 3 西ヨーロッパ中世世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化 第7章 アジア諸地域の繁栄 1 東アジア世界の動向 2 清代の中国と隣接諸地域	十字軍運動 中世ヨーロッパ各国史 中世ヨーロッパ文化史  明代の中国 清代の中国	中世ヨーロッパ各国の歴史を教皇権との関連を踏まえて理解させる。  プリントを用いて、明・清代の中国史を概観させる。その際、ヨーロッパ諸国との外交・文化の関わりに留意する。
	後 半	第7章 アジア諸地域の繁栄 3 トルコ・イラン世界の展開 4 ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展 第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 1 ヨーロッパ世界の拡大 2 ルネサンス 3 宗教改革	ティムール朝・オスマン帝国・サファヴィー朝 ムガル帝国  大航海時代 ルネサンス ドイツ・スイス・イギリスの宗教改革 対抗宗教改革	プリントを用いて、13世紀以降のイスラーム史を概観させる。高校1年で学習した範囲とのつながりに留意する。  大航海時代(経済・社会面)・ルネサンス(文化面)・宗教改革(宗教面)が近代ヨーロッパ始まりとなったことを理解させる。
3 学 期		第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 4 ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の成立 第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 1 重商主義と啓蒙専制主義 2 ヨーロッパ諸国の海外進出 3 17～18世紀のヨーロッパ文化と社会	主権国家体制の成立  重商主義・啓蒙専制主義・イギリス革命 第二次英仏百年戦争 17～18世紀のヨーロッパ文化	近代ヨーロッパの主権国家体制が今日の国際関係の端緒を形成していく課程を概観させる。  西洋史中心の見方にとらわれないように注意する。

評価方法	定期試験の成績による。小テストや提出課題を平常点に加味することもある。
------	-------------------------------------

学習方法	初めて学ぶことが多いと思われるので、授業後の復習が大切である。その際、授業内容を踏まえて教科書を精読し、補助教材を用いて問題演習をする。できなかったところを再び教科書やノートに戻って復習する。これを繰り返すことにより知識の定着を図ってほしい。特に世界史で受験を考えている者は、高校1年の既習範囲も含めてなるべく早く受験準備に取りかかってほしい。
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

注意事項	近代に関しては西洋史だけでなく、明・清代の中国史及びオスマン帝国・ムガル帝国などの東洋史も扱う。また、高校1年で学習した東洋史の範囲も適宜復習していく。
------	------------------------------------------------------------------------------

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	『詳説世界史10分間テスト』の既習の範囲をノートにやる。
-----------------------	------------------------------

## 高2 社会選択 日本史A 年間指導計画表

教科目(単位数)	日本史A 2単位(週2時間)			
年間目標	近代国家の建設をめざした日本が歩んだ過程を検証し、社会を客観的にとらえる観察力を養う。			
使用教科書	東京書籍『日本史A 現代からの歴史』			
使用補助教材	東京書籍『日本史A ワークノート』			
学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	明治新政府の諸改革と社会の変化	ペリー来航から王政復古まで 新しい統一国家の形成 新政のはじまり 地租改正と殖産興業 文明開化と啓蒙主義 社会生活の変化	明治新政府の政治方針の特徴に着目しつつ、廃藩置県を通じて中央集権体制が整備されていく過程を理解する。 地租改正が旧来の土地・貢租制度をどのように変えたか理解し、農民・農村に与えた影響を考察する。 殖産興業政策がどのように推進されたか、また産業界に与えた影響を理解する。 文明開化が人びとに与えた影響を理解する。
	後 半	明治初期の外交と反政府運動 自由民権運動の展開 立憲体制の成立(前半)	人と文化の交流 初期アジア外交 反政府運動の動き アジアの動向と自由民権運動 松方財政と近代産業の発達 民権運動の激化 憲法の諸構想と大日本帝国 立憲体制の整備 初期議会	新政府が抱えていた外交的課題とその解決方法について考察する。 国会開設運動や士族の反乱が起こった原因・背景とその経過を理解する。 明治憲法の成立過程と諸法典について、その内容を理解する。 初期議会の推移について考察する。
2 学 期	前 半	立憲体制の成立(後半) 日清戦争と国際関係 日露戦争前後の世界と日本(前半)	条約改正の経過 朝鮮問題 日清戦争と三国干渉 資本主義の確立 日清戦争後の政治と社会 近代化の諸思潮 北清事変と日英同盟 日露戦争と国民 日露戦争後の世界と日本	条約改正が銅のような経過で実現したかを理解する。 1880年代の日朝関係の問題点を考察する。 日清戦争の原因・経過・影響について考察する。また、列強の中国分割と日英同盟の締結過程について考察する。 日露戦争の経過と、戦争が国民に及ぼした影響を理解する。
	後 半	日露戦争前後の世界と日本(後半) 政党政治と大衆文化 軍国日本への道(前半)	資本主義の発達と社会運動 第一次護憲運動 第一次世界大戦と中国侵略 パリ講和会議と東アジアの独立運動 大戦景気と社会変動 民衆運動の広がり 政党政治 関東大震災と強まる思想統制 ワシントン体制 大正デモクラシーの思想と文化 社会不安と昭和恐慌	日露戦後の資本主義の発達と社会運動の実態について考察する。 護憲運動とその後の政局の推移について考察する。 大戦中の日本の中国侵略が欧米列強の反発を招いたこと、戦後の民族自決の高まりの中で中国や朝鮮で民族独立運動に直面したことを理解する。 大戦景気が日本資本主義の急速な発展をもたらしたこと、戦後の国内外の状況が社会運動の台頭と広がりをもたらしたことを理解する。 ワシントン体制が日本の外交・内政に与えた影響について考察する。 関東大震災の被害とそれが日本の社会と経済に与えた影響を理解する。 金融恐慌・昭和恐慌によって日本経済が深刻な不況に陥ったことを理解する。
3 学 期		軍国日本への道(後半) 太平洋戦争と日本 現代世界の開幕と日本の戦後改革 日本の再建と復興への道	軍部の台頭 日中全面戦争 戦時統制と国民生活 第二次世界大戦の開始 大東亜共栄圏の実態 大日本帝国の崩壊へ 敗戦と占領 大戦後の世界と冷戦のはじまり 戦後改革 日本国憲法と地方自治 生活の再建 経済の再建 朝鮮戦争と日本の独立	恐慌の深刻化と中国の民族運動に直面し、日本が内外ともに政策の行き詰まりをみせ、軍部が台頭し、政党内閣の慣行が崩壊し、国家改造による軍拡や大陸侵略をめざす動きが起こったことを理解する。そして日中戦争の長期化するなかで、アメリカと対立を深め、太平洋戦争にいたったこと、大東亜共栄圏がアジア諸国に搾取と抑圧をもたらしたことを理解する。 日本の独立を、第二次世界大戦後の世界情勢と絡めて、考察する。
評価方法	定期試験を中心に小テストなど加え、総合的評価する。			
学習方法	教科書を用いて予習をする際に、補助教材の『資料 日本史』を活用し、学習する時代に関し興味を持ってほしい。授業は担当者が作成したプリントを使って進める。			
注意事項	特になし			
インフルエンザ等 臨時休校になった 場合の課題	担当者から適宜、指示する。			

## 高校2年生 日大進学文系 日本史B 年間指導計画表

教科目(単位数)	日大進学文系日本史B(4単位)
年間目標	2年間かけて日本の通史を学ぶ。あわせて基礎学力到達度テストに対応できる学力の養成をめざす。
使用教科書	山川出版『詳説日本史』
使用補助教材	帝国書院『図説 日本史通覧』, 山川出版社『詳説 日本史改訂版10分間テスト』, 担当者作成プリント

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成	文化のはじまり 農耕社会の成立 古墳とヤマト政権 飛鳥の朝廷 律令国家への道 平城京の時代①	・人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ・大陸から伝搬した稲作文化の特色を理解し、弥生文化の形成を考察する。 ・ヤマト政権による国家形成の過程を東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ・律令国家の形成過程とその完成を、律令体制を多面的にとらえ考察する。
	後 半	第2章 律令国家の形成 第3章 貴族政治と国風文化 第2部 中世 第4章 中世社会の成立①	平城京の時代② 天平文化 平安王朝の形成 摂関政治 国風文化 地方政治の展開と武士	・平安初期の古代国家を、律令体制の変容と摂関政治とあわせて理解する。 ・地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質と荘園の拡大をもたらした過程を考察する。 ・院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。
2 学 期	前 半	第4章 中世社会の成立②	院政と平氏の台頭 鎌倉幕府の成立 武士の社会 蒙古襲来と幕府の衰退	・鎌倉幕府の成長の過程を考察する。 ・武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握した過程を理解する。 ・蒙古襲来による政治・経済・社会への影響が幕府衰退の一因となったことを理解する。
	後 半	第5章 武家社会の成長	鎌倉文化 室町幕府の成立 幕府の衰退と庶民の台頭 室町文化	・南北朝動乱から室町幕府の成立と安定について、あわせて庶民が台頭した点を考察する。 ・武家・両文化、及び大陸文化と伝統文化のかかわりについて理解する。
3 学 期		第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立	戦国大名の登場 織豊政権 桃山文化 幕藩体制の成立 幕藩社会の構造	・応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名について、その地理的条件と関連させて理解する。 ・ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ・徳川氏による幕府設立および幕藩体制確立の過程を理解する ・幕藩体制を支えた社会構造の特色を理解する。

評価方法	定期試験・小テストに平常点を加え評価する。
------	-----------------------

学習方法	担当者の指示にしたがって、教科書の該当箇所を予習する。基本事項の確認については、補助教材を活用し、その定着を図る。授業では、歴史的事象の時代背景・相互関連を含め解説するので、教科書および担当者作成プリントを用いて、復習に努めてください。
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

注意事項	特になし
------	------

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	家庭学習において、進度に見合った学習を、自ら教科書、問題演習プリントを使って行う。
-----------------------	-------------------------------------------

## 高校2年生 他大進学文系 日本史B 年間指導計画表

教科目(単位数)	他大進学文系日本史B(4単位)
年間目標	2年間で日本の全史を学ぶ。他大学受験を念頭に置き、入試に十分に対応できる学力の育成をめざす。
使用教科書	山川出版社『詳説日本史』
使用補助教材	担当者作成プリント、帝国書院『図説 日本史通覧』、山川出版社『改訂版日本史B用語集』、同『日本史総合テスト』、同『日本史史料集』

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成	文化のはじまり 農耕社会の成立 古墳とヤマト政権 飛鳥の朝廷 律令国家の成立 平城京の時代 天平文化	・人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ・大陸から伝搬した稲作文化の特色を理解し、弥生文化の形成を考察する。 ・ヤマト政権による国家形成の過程を東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ・律令国家の形成過程とその完成を、律令体制を多面的にとらえ考察する。
	後 半	第2章 律令国家の形成 第3章 貴族政治と国風文化 第2部 中世 第4章 中世社会の成立	平安朝廷の形成 摂関政治 国風文化 荘園と武士 院政と平氏の台頭 鎌倉幕府の成立	・平安初期の古代国家を、律令体制の変容と摂関政治とあわせて理解する。 ・地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質と荘園の拡大をもたらしした過程を考察する。 ・院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ・鎌倉幕府の成長の過程を考察する。
2 学 期	前 半	第5章 武家社会の成長	武士の社会 蒙古襲来と幕府の衰退 鎌倉文化 室町幕府の成立 幕府の衰退と庶民の台頭	・武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握した過程を理解する。 ・蒙古襲来による政治・経済・社会への影響が幕府衰退の一因となったことを理解する。 ・南北朝動乱から室町幕府の成立と安定について、あわせて庶民が台頭した点を考察する。
	後 半	第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 第7章 幕藩体制の展開	室町文化 戦国大名の登場 織豊政権 桃山文化 幕藩体制の成立 幕政の安定	・武家・公家両文化、及び大陸文化と伝統文化のかかわりについて理解する。 ・応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名について、その地理的条件と関連させて理解する。 ・ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ・徳川氏による幕府設立及び幕藩体制確立の過程を理解する。 ・江戸幕府の安定期について、「平和と秩序」の確立の視点で考察する。
3 学 期			経済の発展 元禄文化	・幕藩体制安定期の農業・商工業の発展について、相互関連や社会的役割を踏まえ考察する。 ・町人文化の形成を、町人の社会的台頭と関連させて理解する。

評価方法	定期試験と小テストをもとに総合的に評価する。
------	------------------------

学習方法	近年、多くの大学の入試問題は、日本史においても難問・奇問が減り、各時代の総合的な理解ができていないか、政治や社会等、各分野の歴史的な変遷が把握できているかを問うものが主流となっている。したがって、教科書を用いて予習を行ない、疑問に思う箇所を明らかにして授業に臨むことが要求される。授業は、歴史の流れを把握することに主眼を置く。そのために必要な重要事項を効率よく整理し、提供することを心がけるつもりである。授業後、補助教材を使って、実戦的な課題を出す。
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

注意事項	歴史を学ぶ上で何より大切なのは、歴史の流れを「大きくつかんで、細かく押さえる」ことである。やみくもに歴史用語を暗記するのではなく、歴史事象の因果関係あるいは変化を、常に意識して学習する態度が必要とされる。授業で、「流れ」をつかみ、復習のための課題演習を通じて、重要事項の定着をはかってほしい。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	補助教材の該当箇所を適宜指示する。
-----------------------	-------------------

## 高校2年生 日大進学文系倫理 年間指導計画表

教科目(単位数)	日大進学文系倫理(2単位)
年間目標	高校3年次に「倫理・政治経済」で統一テストを受験する生徒を対象とし、「センター試験」や「統一テスト」に対応できる学力養成を視野に入れた授業展開をする。高3で演習をより多く展開するためにも、出来るだけ進める。
使用教科書	第一出版社『高等学校 改訂版 倫理』倫理310
使用補助教材	浜島書店『最新図説 倫理』

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	第1章 青年期の課題と自己形成 1 よく生きることを求めて 2 青年期の課題 第2章 人間としての自覚 1 ギリシャ思想の展開	1 自然哲学とソフィスト 2 ソクラテス	○青年期特有の不安を、客観的に理解する。 ○青年期の課題を、アイデンティティの確立として捉える。  ○古代ギリシアの、自然哲学の誕生を通して、理性的人間観と合理的世界観の成立を理解する。 ○ソクラテスの哲学的精神の意義を理解する。
	後 半	2 キリスト教  3 イスラーム	3 プラトン 4 アリストテレス 5 ギリシャ思想の展開  1 ユダヤ教の世界 2 イエス 3 キリスト教の発展	○理想主義であるイデア論の特徴を理解する。 ○アリストテレスの自然観、および道徳論・国家論を学ぶ。  ○キリスト教の形成を学習し、一神教の特徴を理解する。 ○神の愛アガペーと隣人愛の意義を考える。 ○パウロやアウグスティヌスの人間観を理解する。 ○キリスト教とイスラームの思想的な関係を理解する。
2 学 期	前 半	4 仏教  5 中国思想	1 インドの思想文化 2 ブッダの教え 3 仏教思想の展開  1 中国の思想文化 2 儒家の思想 3 道家の思想	○仏教が自己形成の実践であることを理解する。 ○ブッダの縁起説や無我の法について学習する。 ○日本思想の伝統となる、大乘仏教の特徴を理解する。  ○孔子の説く人倫の道の特徴を理解し、漢字文化圏に共通する家族主義道徳について考える。 ○儒教的人間観および世界観の特徴を理解する。 ○老荘思想の「道」の捉え方を学習する。
	後 半	第4章 現代に生きる人間の倫理 1 人間の尊厳  2 近代の科学革命と自然観  3 自由で平等な社会の実現	1 ルネサンスと宗教改革 2 人間性の探求(モラリスト)  1 近代の科学革命 2 経験論と合理論 3 近代化学と社会の進歩  1 社会契約説の思想	○ルネサンスが、近代のヒューマンイズムへと展開したことを理解する。 ○宗教改革が西欧近代社会形成の重要な契機となったことを理解する。 ○モラリストの思想と理性主義へのパスカルの批判を考える。  ○近代科学および機械論的自然観の特徴を理解する。 ○近代科学の発展に大きな影響を与えたベーコンとデカルトの思想の特徴を理解する。 ○実証主義や社会進化論の特徴を理解する。  ○民主社会を形成する基本原理を、自然法思想や社会契約論の展開から理解する。
3 学 期		4 人間性の回復と主体性の確立	2 人格の尊厳と自由—カント 3 人倫と自由の実現—ヘーゲル 4 功利主義の思想  1 社会主義の思想 2 実存主義の思想  3 プラグマティズムの思想	○自律を人格の尊厳の根拠とするカントの思想を学習し、近代の人間尊重の精神を理解する。 ○ヘーゲルの弁証法的なものの方、および弁証法の論理に基づく「人倫」の捉え方を理解する。○ ○功利主義思想の特徴を理解し、功利主義と民主主義との関係や、個性の自由について考える。  ○社会主義思想およびマルクスの人間観・社会観を学習し、現代の精神的貧困について考える。 ○キルケゴールの単独者やニーチェの超人の思想を学習し、主体的自己の確立について考える。また実存思想を学習し、自由な内面的自己を確立する意義と、人類に責任を負う生き方を考える。 ○プラグマティズムの思想の特徴を理解する。

評価方法	定期試験
------	------

学習方法	過去問題を数多く解くことにより各自の「穴」を見つけ、その部分を復習・強化していく。
------	-------------------------------------------

注意事項	漫然と過去問題を解くということにならないよう、時間をはかり、集中力を高めつつ効率良い演習を心がける。
------	----------------------------------------------------

## 高校2年生 他大進学文系倫理 年間指導計画表

教科目(単位数)	他大進学文系倫理(2単位)
年間目標	センター試験レベルに対応できる学力の養成を念頭に置いて授業を展開し、基本事項の定着をめざす。
使用教科書	第一学習社『高等学校 改訂版 倫理』倫理310
使用補助教材	第一学習社『改訂版 倫理ノート』

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	第1章 青年期の課題と自己形成 第2章 人間としての自覚 1 ギリシアの思想 2 キリスト教	青年期における人格形成の課程を理解する。 西洋思想の学問の基礎をなすギリシア哲学の流れと内容を理解する。 キリスト教の成立過程と考え方を理解する。	青年期を理解することにより、今の自分を見つめ成長の一助となることも目標にする。 知への探求の出発点を意識し理解させる。 宗教の存在意義を意識して解説する。
	後 半	3 イスラーム 4 仏教 5 中国の思想 第3章 国際社会に生きる日本人としての自覚 1 日本の風土と伝統	イスラームの成立過程と考え方を理解する。 仏教の成立過程と考え方を理化する。 日本文化にも大きく影響を与えた中国思想を理解する。 日本文化の基礎となる考え方を理解する。	宗教の存在意義を意識して解説する。 中国思想の系譜を理解させる。 日本古来の自然観に根差している点に留意し展開する。
2 学 期	前 半	2 外来思想の受容 ①日本仏教の展開 ②日本儒教の展開 3 町人意識のめざめと庶民思想 4 西洋思想との出会い ①幕末の思想 ②明治の啓蒙思想 ③日本社会とキリスト教	仏教の影響を受けた日本文化を理解する。 中国思想の影響を受けた日本文化を理解する。 西欧思想の影響を受けた日本文化を学習・理解する。	日本史の授業にならないよう、考え方の変遷に重点を置きながら展開する。 中国思想がわが国でどのようにアレンジされたのかを意識して展開する。 西欧思想がわが国でどのようにアレンジされたのかを意識して展開する。
	後 半	④近代的自我の確立 ⑤社会思想の展開 ⑥近代日本の思想課題 第4章 現代に生きる人間の倫理 1 人間の尊厳 2 近代の科学革命と自然観	西欧思想の影響の中で展開した我が国の文化について理解する。 ルネサンスと宗教改革から始まったヒューマンズムについて理解する。 経験論と合理論について理解する。	日本史の授業と同じにならないように、思想の展開に重点をおいて展開する。 世界史の授業と同じにならないように、思想の展開に重点をおいて展開する。 デカルト、ペーコンは、図説使って解説する。
3 学 期		3 自由で平等な社会の実現 4 人間性の回復と主体性の確立 5 現代の思想と人間像 6 生命への畏敬と社会参加 第5章 現代の諸課題と倫理	近代市民社会を形成した理論を理解する。 資本主義の中で生まれてきた、様々な考え方を理解する。 生命・環境をめぐる諸問題を理解する。	「現代社会」で学んだ社会契約説を思想的側面から捉える。 カント・ヘーゲルの思索の内容を整理し解説する。 登場人物が多い為、思想の展開や特徴を理解させてから、各人物をとらえさせる。

評価方法	原則として「評価法」通り定期試験により評価する。ただし、必要に応じて課題レポートを課し、平常点の範囲内で加算する場合もある。
------	----------------------------------------------------------------

学習方法	座学中心の授業展開。副教材を利用し、「思考する」ことに重点を置いて学習する。
------	----------------------------------------

注意事項	座学中心なので、生徒が興味を失わないように、身近な事例をとりあげ、より具体的に理解できるよう工夫をする。「思考」することにより、青年期の人格形成の一助になることをも視野に入れていきたい。
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	資料集を使って休校中の範囲をまとめる。2単位なので、レポート2枚程度でまとめられるため、休養中の負担は少ないと判断した。
-----------------------	--------------------------------------------------------------

## 高校2年 日大コース文系 数学Ⅱ 年間指導計画表

教科目	数学Ⅱ	4単位(週4時間)
-----	-----	-----------

年間目標	<p>・式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数、極限、微分・積分の考えについて理解し、これらについての数学的活動における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。また、事象を数学的にとらえ、対象を論理的に考察するとともに過程を振り返り多面的・発展的に考える。</p> <p>・式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数、極限、微分・積分についての基本的概念を理解し、原理・法則、用語・記号などを適切に扱うことができるようになる。さらに、数学的な考察、数学的な表現・処理の仕方や推論の方法を身につける。</p>
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

使用教科書 数研出版『高等学校 数学Ⅱ』

副教材 数研出版『4プロセス 数学Ⅱ+B』、啓林館『フォーカスゴールド数学Ⅱ+B』

数学Ⅱ		区分	単 元	内 容	目 標・留 意 点
学 期	前 半	前	第1章 式と証明 第1節 式と計算	1. 3次式の展開と因数分解 2. 二項定理 研究 $(a+b+c)^n$ の展開式 3. 整式の割り算 4. 分数式とその計算	整式の除法、分数式の計算の理解・問題演習。
			第2節 等式・不等式の証明	5. 恒等式 研究 代入による恒等式の係数決定 6. 等式の証明 7. 不等式の証明	恒等式の理解・問題演習。等式・不等式の証明についての理解・問題演習。 代数的な式をもとに論証について理解する。
			第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解	1. 複素数とその計算 2. 2次方程式の解 3. 解と係数の関係	複素数の定義・理解・問題演習。複素数の範囲での二次方程式の解法の理解・問題演習。
	後 半	後	第2節 高次方程式	4. 剰余の定理と因数定理 研究 組立除法 5. 高次方程式	複2次式や因数定理による高次方程式の解法を学ぶ。
			第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係	座標平面上において図形とその方程式の関係を明らかにし直線の方程式、二直線の平行条件・垂直条件と直線の距離について理解し自在な取り扱いができるようにする。
			第2節 円	5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円 研究 2つの円の交点を通る図形 8. 軌跡と方程式	円の方程式を理解し、円と直線との問題に応用できるようにする。 直線や円が条件を満たす点の集合であることを理解し、不等式が領域を表していることを理解する。
学 期	前 半	半	第4章 三角関数 第1節 三角関数	9. 不等式の表す領域 1. 角の拡張 2. 三角関数 3. 三角関数のグラフ 4. 三角関数の性質 5. 三角関数の応用	一般角や弧度法を学び、相互関係の公式から理解を深める。また、三角比のグラフの特徴に興味を持ち理解する。
			第2節 加法定理	6. 三角関数の加法定理 研究 加法定理と点の回転 7. 加法定理の応用 発展 和と積の公式	加法定理の証明を理解し、さまざまな公式を導き、利用する。
			第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数	1. 指数の拡張研究 負の指数関数 2. 指数関数	指数を有理数にまで拡張したときも、指数法則が成り立つことを理解し、指数関数のグラフを利用して、方程式・不等式を解く。
	後 半	半	第2節 対数関数	3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数	対数関数をグラフを用いて認識を深め、特徴などの理解を深める。
			第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数	1. 微分係数 2. 導関数とその計算 研究 関数 $x^n$ の導関数	平均変化率を図形的意味も含めて理解する。関数の平均変化率の極限として微分係数を求めることができる。また、グラフの接線の傾きと対比して、微分係数の図形的な意味を理解する。
			第2節 関数の値の変化 第3節 積分法	3. 接線の方程式 4. 関数の増減と極大・極小 5. 関数の増減・グラフの応用 6. 不定積分 7. 定積分	グラフの接線の方程式をもとめ、それと関連づけて増減を調べ、グラフをかけるようにする。 不定積分、定積分の定義を理解し、計算できるようにする。

期	8. 定積分と図形の面積 研究 曲線と接線で囲まれた部分の面積 研究 放物線とx軸で囲まれた部分の面積
---	-----------------------------------------------------------

評価方法等	1 定期試験の成績 知識・理解に偏ることなく、数学的な考え方、表現・処理をみるための問題も出題します。 2 学習態度等の平常点 課題の提出状況・課題テスト・小テストの成績などを評価します。 1、2を本校評価法に合わせて判断します。
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習方法	1. 教科書をよく読み、その単元での要点を押さえる 2. 要点をノートにまとめる 3. 教科書の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する 4. 問題集の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する 5. 例題の下にある問題を解いて、理解を深める 6. 参考書を使って、問題を解く(解法のポイントや要点もまとめる)
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

} 予習の時

} 復習の時

注意事項	数学の問題の解法は、設問に対して、定義やルールに従って複数のプロセスを経て論理的に展開され、結論が導き出されるものです。単に数学の定義や 定理・公式などの「知識」や問題解法を単発的に丸暗記し、知識量を増やしたとしても、それらを単純にあてはめる事で問題が解けるようになることはありません。問題を解くには、まずはそのパターンを認識できるかが大切だと思います。数学の問題を解くにあたって考えるというのは、問題文を読んで、問題が示す条件と既知の知識との間に類似性と差異を見出すことなのだと思います。そこで復習が大事になります。理由の一つは、「自分が何をどれくらい理解できているのか」「何が理解できていないのか」を明確にすることです。自分の理解が十分な部分、または弱点を把握しておく、ということは、その後の学習計画を立てる際に大いに参考になるはずです。もう一つは「問題を見て、解法の「第一手」が頭に浮かぶかどうか」「解答の流れが頭の中で再生できるかどうか」を確認するという事です。
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

インフルエンザ等による長期休業中における課題	
インフルエンザ等による長期休業中は、教科書とノート(数学ⅡとBは別)を用いて復習を進めておきましょう。方法としては、始めに用語や記号の定義や公式をまとめ、その後に例と例題の問題文と解説・解答を書き写します。その際、疑問点などを書き加えておくと良いでしょう。4プロセスの問題、フォーカスゴールドの例題・練習に挑戦してください。上記の学習の方法を参照してください。シラバスに載っている授業計画をよく見て、どの程度進めるべきかを確認するようにしてください。	

## 高校2年 日大コース理系 数学Ⅱ 年間指導計画表

教科目	数学Ⅱ	4単位(週4時間)
-----	-----	-----------

年間目標	<p>・数学的活動を通して、式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数、極限、微分・積分の考えにおける考え方に興味をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。また、数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ、論理的に考察するとともに過程を振り返り多面的・発展的に考える。</p> <p>・式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数、極限、微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方を見方を身につける。</p>
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

使用教科書 数研出版『高等学校 数学Ⅱ』

副教材 数研出版『4プロセス 数学Ⅱ+B』、啓林館『フォーカスゴールド数学Ⅱ+B』

数学Ⅱ		区分	単 元	内 容	目 標・留 意 点
1  学  期	前		第1章 式と証明	1. 3次式の展開と因数分解 2. 二項定理 研究 $(a+b+c)^n$ の展開式 3. 整式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式 研究 代入による恒等式の係数決定	整式の除法、分数式の計算の理解・問題演習。
			第1節 式と計算		
			第2節 等式・不等式の証明		代数的な式をもとに論証について理解する。
	半		第2章 複素数と方程式	1. 複素数とその計算 2. 2次方程式の解 3. 解と係数の関係	複素数の定義・理解・問題演習。複素数の範囲での二次方程式の解法の理解・問題演習。
			第1節 複素数と2次方程式の解		
	後		第2節 高次方程式	4. 剰余の定理と因数定理 研究 組立除法 5. 高次方程式	複2次式や因数定理による高次方程式の解法を学ぶ。
第4章 三角関数			1. 角の拡張 2. 三角関数 3. 三角関数のグラフ 4. 三角関数の性質 5. 三角関数の応用	一般角や弧度法を学び、相互関係の公式から理解を深める。また、三角比のグラフの特徴に興味を持ち理解する。	
第1節 三角関数					
第2節 加法定理	6. 三角関数の加法定理 研究 加法定理と点の回転 7. 加法定理の応用発展	加法定理の証明を理解し、さまざまな公式を導き、利用する。			
2  学  期	前		第5章 指数関数と対数関数	1. 指数の拡張 2. 指数関数 3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数	指数を有理数にまで拡張したときも、指数法則が成り立つことを理解する。
			第1節 指数関数		
			第2節 対数関数		
	半		第6章 微分法と積分法	1. 微分係数 2. 導関数とその計算 研究 関数 $x^n$ の導関数 3. 接線の方程式	平均変化率を図形的意味も含めて理解する。関数の平均変化率の極限として微分係数を求めることができる。また、グラフの接線の傾きと対比して、微分係数の図形的な意味を理解する。
			第1節 微分係数と導関数		
	後		第2節 関数の値の変化	4. 関数の増減と極大・極小 5. 関数の増減・グラフの応用	グラフの接線の方程式をもとめ、それと関連づけて増減を調べる。
第3節 積分法			6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と図形の面積 研究 曲線と接線で囲まれた部分の面積	不定積分、定積分の定義を理解し、計算できるようにする。	
3  学  期		第3章 関数	1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数	様々な関数のグラフを理解する。また、逆関数・合成関数を理解し、求められるようにする。	
		第4章 極限	1. 数列の極限 2. 無限等比数列 3. 無限級数	数列の収束・発散を理解し、極限を求められるようにする。また、図形へ応用を出来るようにする。	
第1節 数列の極限					

評価方法等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 定期試験の成績 知識・理解に偏ることなく、数学的な考え方、表現・処理をみるための問題も出題します。</li> <li>2 学習態度等の平常点 課題の提出状況・課題テスト・小テストの成績などを評価します。</li> </ol> <p>1、2を本校評価法に合わせて判断します。</p>
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習方法	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教科書をよく読み、その単元での要点を押さえる</li> <li>2. 要点をノートにまとめる</li> <li>3. 教科書の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する</li> <li>4. 問題集の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する</li> </ol> </td> <td style="width: 5%; text-align: center; vertical-align: middle;">}</td> <td style="width: 45%; vertical-align: middle;">予習の時</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 例題の下にある問題を解いて、理解を深める</li> <li>6. 参考書を使って、問題を解く(解法のポイントや要点もまとめる)</li> </ol> </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">}</td> <td style="vertical-align: middle;">復習の時</td> </tr> </table>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教科書をよく読み、その単元での要点を押さえる</li> <li>2. 要点をノートにまとめる</li> <li>3. 教科書の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する</li> <li>4. 問題集の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する</li> </ol>	}	予習の時	<ol style="list-style-type: none"> <li>5. 例題の下にある問題を解いて、理解を深める</li> <li>6. 参考書を使って、問題を解く(解法のポイントや要点もまとめる)</li> </ol>	}	復習の時
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教科書をよく読み、その単元での要点を押さえる</li> <li>2. 要点をノートにまとめる</li> <li>3. 教科書の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する</li> <li>4. 問題集の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する</li> </ol>	}	予習の時					
<ol style="list-style-type: none"> <li>5. 例題の下にある問題を解いて、理解を深める</li> <li>6. 参考書を使って、問題を解く(解法のポイントや要点もまとめる)</li> </ol>	}	復習の時					

注意事項	<p>数学の問題の解法は、設問に対して、定義やルールに従って複数のプロセスを経て論理的に展開され、結論が導き出されるものです。単に数学の定義や 定理・公式などの「知識」や問題解法を単発的に丸暗記し、知識量を増やしたとしても、それらを単純にあてはめる事で問題が解けるようになることはありません。問題を解くには、まずはそのパターンを認識できるかが大切だと思います。数学の問題を解くにあたって考えるというのは、問題文を読んで、問題が示す条件と既知の知識との間に類似性と差異を見出すことなのだと思います。そこで復習が大事になります。理由の一つは、「自分が何をどれくらい理解できているのか」「何が理解できていないのか」を明確にすることです。自分の理解が十分な部分、または弱点を把握しておく、ということは、その後の学習計画を立てる際に大いに参考になるはずですが、もう一つは「問題を見て、解法の「第一手」が頭に浮かぶかどうか」「解答の流れが頭の中で再生できるかどうか」を確認するという事です。</p>
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<b>インフルエンザ等による長期休業中における課題</b>	
<p>インフルエンザ等による長期休業中は、教科書とノート(数学ⅡとBは別)を用いて復習を進めておきましょう。方法としては、始めに用語や記号の定義や公式をまとめ、その後に例と例題の問題文と解説・解答を書き写します。その際、疑問点などを書き加えておくとい良いでしょう。4プロセスの問題、フォーカスゴールドの例題・練習に挑戦してください。上記の学習の方法を参照してください。</p> <p>シラバスに載っている授業計画をよく見て、どの程度進めるべきかを確認するようにしてください。</p>	

## 高校2年 難関大コース文系 数学Ⅱ 年間指導計画表

教科目	数学Ⅱ	4単位(週4時間)
-----	-----	-----------

年間目標	<p>・式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数、極限、微分・積分の考えについて理解し、これらについての数学的活動における考え方に興味をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。また、事象を数学的にとらえ、対象を論理的に考察するとともに過程を振り返り多面的・発展的に考える。</p> <p>・式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数、極限、微分・積分についての基本的概念を理解し、原理・法則、用語・記号などを適切に扱うことができるようになる。さらに、数学的な考察、数学的な表現・処理の仕方や推論の方法を身につける。</p>
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

使用教科書 数研出版『高等学校 数学Ⅱ』

副教材 数研出版『4プロセス 数学Ⅱ+B』、啓林館『フォーカスゴールド数学Ⅱ+B』

数学Ⅱ		区分	単 元	内 容	目標・留意点	
学 期	前 半	1	第1章 式と証明	1. 3次式の展開と因数分解	整式の除法、分数式の計算の理解・問題演習。	
			第1節 式と計算	2. 二項定理		
				3. 整式の割り算		
			4. 分数式とその計算	恒等式の理解・問題演習。等式・不等式の証明についての理解・問題演習。		
			5. 恒等式			
	第2節 等式・不等式の証明	6. 等式の証明	代数的な式をもとに論証について理解する。			
第2章 複素数と方程式	1. 複素数とその計算	複素数の定義・理解・問題演習。複素数の範囲での二次方程式の解法の理解・問題演習。				
後 半	2	第1節 複素数と2次方程式の解	2. 2次方程式の解			
		第2節 高次方程式	3. 解と係数の関係	複2次式や因数定理による高次方程式の解法を学ぶ。		
学 期	前 半	3	第2節 高次方程式	4. 剰余の定理と因数定理 研究 組立除法	座標平面上において図形とその方程式の関係を明らかにし直線の方程式、二直線の平行条件・垂直条件と直線の距離について理解し自在な取り扱いができるようにする。	
			第3章 図形と方程式	1. 直線上の点		
			第1節 点と直線	2. 平面上の点		
			3. 直線の方程式			
			4. 2直線の関係			
			5. 円の方程式	円の方程式を理解し、円と直線との問題に応用できるようにする。		
後 半	4	第2節 円	6. 円と直線			
		第3節 軌跡と領域	7. 2つの円	直線や円が条件を満たす点の集合であることを理解し、不等式が領域を表していることを理解する。		
		第4章 三角関数	8. 軌跡と方程式			
学 期	前 半	5	第1節 三角関数	9. 不等式の表す領域	一般角や弧度法を学び、相互関係の公式から理解を深める。また、三角比のグラフの特徴に興味を持ち理解する。	
				1. 角の拡張		
				2. 三角関数		
	後 半		6	第2節 加法定理	3. 三角関数のグラフ	加法定理の証明を理解し、さまざまな公式を導き、利用する。
					4. 三角関数の性質	
				第5章 指数関数と対数関数	5. 三角関数の応用	
後 半	7	第1節 指数関数	6. 三角関数の加法定理	指数を有理数にまで拡張したときも、指数法則が成り立つことを理解し、指数関数のグラフを利用して、方程式・不等式を解く。		
		第2節 対数関数	7. 加法定理の応用			
			3. 対数とその性質	対数関数をグラフを用いて認識を深め、特徴などの理解を深める。		
学 期	8	9	4. 対数関数	平均変化率を図形的意味も含めて理解する。関数の平均変化率の極限として微分係数を求めることができる。また、グラフの接線の傾きと対比して、微分係数の図形的な意味を理解する。		
			5. 常用対数			
			第6章 微分法と積分法	3. 接線の方程式	グラフの接線の方程式をもとめ、それと関連づけて増減を調べ、グラフをかけるようにする。	
後 半	9	10	第1節 微分係数と導関数	4. 関数の増減と極大・極小	不定積分、定積分の定義を理解し、計算できるようにする。	
			第2節 関数の値の変化	5. 関数の増減・グラフの応用		
			第3節 積分法	6. 不定積分		
			7. 定積分			
			8. 定積分と図形の面積			

評価方法等	<p>1 定期試験の成績 知識・理解に偏ることなく、数学的な考え方、表現・処理をみるための問題も出題します。</p> <p>2 学習態度等の平常点 課題の提出状況・課題テスト・小テストの成績などを評価します。</p> <p>1、2を本校評価法に合わせて判断します。</p>
-------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習方法	<p>1. 教科書をよく読み、その単元での要点を押さえる</p> <p>2. 要点をノートにまとめる</p> <p>3. 教科書の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する</p> <p>4. 問題集の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する</p> <p>5. 例題の下にある問題を解いて、理解を深める</p> <p>6. 参考書を使って、問題を解く(解法のポイントや要点もまとめる)</p>	<p>予習の時</p> <p>復習の時</p>
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------

注意事項

数学の問題の解法は、設問に対して、定義やルールに従って複数のプロセスを経て論理的に展開され、結論が導き出されるものです。単に数学の定義や 定理・公式などの「知識」や問題解法を単発的に丸暗記し、知識量を増やしたとしても、それらを単純にあてはめる事で問題が解けるようになることはありません。問題を解くには、まずはそのパターンを認識できるかが大切だと思います。数学の問題を解くにあたって考えるというのは、問題文を読んで、問題が示す条件と既知の知識との間に類似性と差異を見出すことなのだと思います。そこで復習が大事になります。理由の一つは、「自分が何をどれくらい理解できているのか」「何が理解できていないのか」を明確にすることです。自分の理解が十分な部分、または弱点を把握しておく、ということは、その後の学習計画を立てる際に大いに参考になるはずです。もう一つは「問題を見て、解法の「第一手」が頭に浮かぶかどうか」「解答の流れが頭の中で再生できるかどうか」を確認することです。

インフルエンザ等による長期休業中における課題

インフルエンザ等による長期休業中は、教科書とノート(数学ⅡとBは別)を用いて復習を進めておきましょう。方法としては、始めに用語や記号の定義や公式をまとめ、その後に例と例題の問題文と解説・解答を書き写します。その際、疑問点などを書き加えておくの良いでしょう。4プロセスの問題、フォーカスゴールの例題・練習に挑戦してください。上記の学習の方法を参照してください。シラバスに載っている授業計画をよく見て、どの程度進めるべきかを確認するようにしてください。

## 高校2年 難関大コース理系 数学Ⅱ 年間指導計画表

教科目 数学Ⅱ 4単位(週4時間)

**年間目標** ・数学的活動を通して、式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数、極限、微分・積分の考えにおける考え方に興味をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。また、数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ、論理的に考察するとともに過程を振り返り多面的・発展的に考える。  
 ・式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数、極限、微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や見方を身につける。

**使用教科書** 数研出版『高等学校 数学Ⅱ』

**副教材** 数研出版『4プロセス 数学Ⅱ+B』、啓林館『フォーカスゴールド数学Ⅱ+B』

数学Ⅱ		目 標・留 意 点			
学期	区分	単 元	内 容	目 標・留 意 点	
1 学 期	前	第1章 式と証明 第1節 式と計算	1. 3次式の展開と因数分解 2. 二項定理 3. 整式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式	整式の除法、分数式の計算の理解・問題演習。  恒等式の理解・問題演習。等式・不等式の証明についての理解・問題演習。	
		第2節 等式・不等式の証明	6. 等式の証明 7. 不等式の証明	代数的な式をもとに論証について理解する。	
	半	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解	1. 複素数とその計算 2. 2次方程式の解 3. 解と係数の関係	複素数の定義・理解・問題演習。複素数の範囲での二次方程式の解法の理解・問題演習。	
		第2節 高次方程式	4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式	複2次式や因数定理による高次方程式の解法を学ぶ。	
	後	第4章 三角関数 第1節 三角関数	1. 角の拡張 2. 三角関数 3. 三角関数のグラフ 4. 三角関数の性質 5. 三角関数の応用	一般角や弧度法を学び、相互関係の公式から理解を深める。また、三角比のグラフの特徴に興味を持ち理解する。	
		第2節 加法定理	6. 三角関数の加法定理 7. 加法定理の応用発展	加法定理の証明を理解し、さまざまな公式を導き、利用する。	
	2 学 期	前	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数	1. 指数の拡張 2. 指数関数	指数を有理数にまで拡張したときも、指数法則が成り立つことを理解し、指数関数のグラフを利用して、方程式・不等式を解く。
			第2節 対数関数	3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数	対数関数をグラフを用いて認識を深め、特徴などの理解を深める。
半		第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数	1. 微分係数 2. 導関数とその計算 3. 接線の方程式	平均変化率を図形的意味も含めて理解する。関数の平均変化率の極限として微分係数を求めることができる。また、グラフの接線の傾きと対比して、微分係数の図形的な意味を理解する。	
		第2節 関数の値の変化	4. 関数の増減と極大・極小 5. 関数の増減・グラフの応	グラフの接線の方程式をもとめ、それと関連づけて増減を調べ、グラフをかけるようにする。	
後		第3節 積分法	6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と図形の面積	不定積分、定積分の定義を理解し、計算できるようにする。	
		第3章 関数	1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数	様々な関数のグラフを理解する。また、逆関数・合成関数を理解し、求められるようにする。	
3 学 期	第4章 極限 第1節 数列の極限	1. 数列の極限 2. 無限等比数列 3. 無限級数	数列の収束・発散を理解し、極限を求められるようにする。また、図形へ応用を出来るようにする。		

**評価方法等** 1 定期試験の成績 知識・理解に偏ることなく、数学的な考え方、表現・処理をみるための問題も出題します。  
 2 学習態度等の平常点 課題の提出状況・課題テスト・小テストの成績などを評価します。  
 1、2を本校評価法に合わせて判断します。

**学習方法** 1. 教科書をよく読み、その単元での要点を押さえる } 予習の時  
 2. 要点をノートにまとめる }  
 3. 教科書の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する }  
 4. 問題集の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する } 復習の時  
 5. 例題の下にある問題を解いて、理解を深める }  
 6. 参考書を使って、問題を解く(解法のポイントや要点もまとめる) }

注意事項	数学の問題の解法は、設問に対して、定義やルールに従って複数のプロセスを経て論理的に展開され、結論が導き出されるものです。単に数学の定義や 定理・公式などの「知識」や問題解法を単発的に丸暗記し、知識量を増やしたとしても、それらを単純にあてはめる事で問題が解けるようになることはありません。問題を解くには、まずはそのパターンを認識できるかが大切だと思います。数学の問題を解くにあたって考えるというのは、問題文を読んで、問題が示す条件と既知の知識との間に類似性と差異を見出すことなのだと思います。そこで復習が大事になります。理由の一つは、「自分が何をどれくらい理解できているのか」「何が理解できていないのか」を明確にすることです。自分の理解が十分な部分、または弱点を把握しておく、ということは、その後の学習計画を立てる際に大いに参考になるはずですが、もう一つは「問題を見て、解法の「第一手」が頭に浮かぶかどうか」「解答の流れが頭の中で再生できるかどうか」を確認するということです。
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

インフルエンザ等による長期休業中における課題	
インフルエンザ等による長期休業中は、教科書とノート(数学ⅡとBは別)を用いて復習を進めておきましょう。方法としては、始めに用語や記号の定義や公式をまとめ、その後例と例題の問題文と解説・解答を書き写します。その際、疑問点などを書き加えておくと良いでしょう。4プロセスの問題、フォーカスゴールドの例題・練習に挑戦してください。上記の学習の方法を参照してください。シラバスに載っている授業計画をよく見て、どの程度進めるべきかを確認するようにしてください。	

## 高校2年 日大コース文系 数学B 年間指導計画表

教科目	数学B	2単位(週2時間)
-----	-----	-----------

年間目標	<p>・数列、ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。</p> <p>・数列、ベクトルの考えについて理解し、これらについての数学的活動における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。また、事象を数学的にとらえ、対象を論理的に考察するとともに過程を振り返り多面的・発展的に考える。</p> <p>・数列、ベクトルについての基本的概念を理解し、原理・法則、用語・記号などを適切に扱うことができるようになる。さらに、数学的な考察、数学的な表現・処理の仕方や推論の方法を身につける。</p>
使用教科書	数研出版『高等学校 数学B』
副教材	数研出版『4プロセス 数学Ⅱ+B』、啓林館『フォーカスゴールド数学Ⅱ+B』

学期	区分	単元	内 容	目標・留意点
1 学 期	前 半	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算	1. ベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積	平面上のベクトルの概念を理解し、演算や性質を理解する。
	後 半	第2節 ベクトルと平面図形 第2章 空間のベクトル	5. 位置ベクトル 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示 1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用 発展 同じ平面上にある点 6. 座標空間における図形	位置ベクトルを用いて、点を表現できるようにする。また、直線や円の方程式をベクトルで表し、媒介変数表示の理解を深める。 空間の座標を定め、空間の点も座標を用いて表すことを知らせる。
2 学 期	前 半	第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列	1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和 研究 複利計算	数列の概念を理解し、等差数列・等比数列の理解を深める。また、 $\Sigma$ の記号の意味を理解し、和の計算を出来るようにする。
	後 半	第2節 いろいろな数列	6. 和の記号 $\Sigma$ 7. 階差数列 8. いろいろな数列の和 9. 漸化式 研究 $a_{n+1}=pa_n+q$ を満たす数列の階差数列 発展 隣接3項間の漸化式	数列の機能的定義を理解し、漸化式から数列の一般項を求められるようにする。
3 学 期		第3節 数学的帰納法	10. 数学的帰納法	
		総復習		数学ⅡBの総復習(基礎学力到達度テストに向けて)

評価方法等	<p>1 定期試験の成績 知識・理解に偏ることなく、数学的な考え方、表現・処理をみるための問題も出題します。</p> <p>2 学習態度等の平常点 課題の提出状況・課題テスト・小テストの成績などを評価します。 1、2を本校評価法に合わせて判断します。</p>
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習方法	<p>1. 教科書をよく読み、その単元での要点を押さえる</p> <p>2. 要点をノートにまとめる</p> <p>3. 教科書の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する</p> <p>4. 問題集の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する</p> <p>5. 例題の下にある問題を解いて、理解を深める</p> <p>6. 参考書を使って、問題を解く(解法のポイントや要点もまとめる)</p>	<p>予習の時</p> <p>復習の時</p>
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------

注意事項	<p>数学の問題の解法は、設問に対して、定義やルールに従って複数のプロセスを経て論理的に展開され、結論が導き出されるものです。単に数学の定義や 定理・公式などの「知識」や問題解法を単発的に丸暗記し、知識量を増やしたとしても、それらを単純にあてはめる事で問題が解けるようになることはありません。問題を解くには、まずはそのパターンを認識できるかが大切だと思います。数学の問題を解くにあたって考えるというのは、問題文を読んで、問題が示す条件と既知の知識との間に類似性と差異を見出すことなのだと思います。そこで復習が大事になります。理由の一つは、「自分が何をどれくらい理解できているのか」「何が理解できていないのか」を明確にすることです。自分の理解が十分な部分、または弱点を把握しておく、ということは、その後の学習計画を立てる際に大いに参考になるはずですが、もう一つは「問題を見て、解法の「第一手」が頭に浮かぶかどうか」「解答の流れが頭の中で再生できるかどうか」を確認することです。</p>
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

インフルエンザ等による長期休業中における課題

インフルエンザ等による長期休業中は、教科書とノート(数学ⅡとBは別)を用いて復習を進めておきましょう。方法としては、始めに用語や記号の定義や公式をまとめ、その後に例と例題の問題文と解説・解答を書き写します。その際、疑問点などを書き加えておく方が良いでしょう。4プロセスの問題、フォーカスゴールドの例題・練習に挑戦してください。上記の学習の方法を参照してください。  
シラバスに載っている授業計画をよく見て、どの程度進めるべきかを確認するようにしてください。

## 高校2年 日大コース 理系 数学B 年間指導計画表

教科目	数学B	4単位(週4時間)	
年間目標	<p>・図形と方程式、数列、ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。</p> <p>・図形と方程式、数列、ベクトルの考えについて理解し、これらについての数学的活動における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。また、事象を数学的にとらえ、対象を論理的に考察するとともに過程を振り返り多面的・発展的に考える。</p> <p>・図形と方程式、数列、ベクトルについての基本的概念を理解し、原理・法則、用語・記号などを適切に扱うことができるようになる。さらに、数学的な考察、数学的な表現・処理の仕方や推論の方法を身につける。</p>		
使用教科書	数研出版『高等学校 数学Ⅱ』、『高等学校 数学B』		
副教材	数研出版『4プロセス 数学Ⅱ+B』、啓林館『フォーカスゴールド数学Ⅱ+B』		

数学B					
学期	区分	単元	内 容	目標・留意点	
第1学期	前 半	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算	1. ベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積	平面上のベクトルの概念を理解し、演算や性質を理解する。	
		第2節 ベクトルと平面図	5. 位置ベクトル 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示	位置ベクトルを用いて、点を表現できるようにする。また、直線や円の方程式をベクトルで表し、媒介変数表示の理解を深める。	
	後 半	第2章 空間のベクトル	1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用 発展 同じ平面上にある点 6. 座標空間における図形	空間の座標を定め、空間の点も座標を用いて表すことを知らせる。	
		第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係	座標平面上において図形とその方程式の関係を明らかにし、直線の方程式、二直線の平行条件・垂直条件と直線の距離について理解し自在な取り扱いができるようにする。	
	第2学期	前 半	第2節 円	5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円 研究 2つの円の交点を通る図形	円の方程式を理解し、円と直線との問題に応用できるようにする。
			第3節 軌跡と領域	8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域 研究 放物線を境界線とする領域	直線や円が条件を満たす点の集合であることを理解し、不等式が領域を表していることを理解する。
後 半		第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列	1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和 研究 複利計算	数列の概念を理解し、等差数列・等比数列の理解を深める。また、 $\Sigma$ の記号の意味を理解し、和の計算を出来るようにする。	
		第2節 いろいろな数列 第3節 数学的帰納法	6. 和の記号 $\Sigma$ 7. 階差数列 8. いろいろな数列の和 9. 漸化式 研究 $a_{n+1}=pa_n+q$ を満たす数列の階差数列 発展 隣接3項間の漸化式 10. 数学的帰納法	数列の機能的定義を理解し、漸化式から数列の一般項を求められるようにする。	
第3学期		総復習		2年生の総復習	

評価方法等	1 定期試験の成績 知識・理解に偏ることなく、数学的な考え方、表現・処理をみるための問題も出題します。
-------	--------------------------------------------------------

学習方法	1. 教科書をよく読み、その単元での要点を押さえる	予習の時
	2. 要点をノートにまとめる	
	3. 教科書の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する	復習の時
	4. 問題集の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する	
	5. 例題の下にある問題を解いて、理解を深める	
	6. 参考書を使って、問題を解く(解法のポイントや要点もまとめる)	

注意事項	<p>数学の問題の解法は、設問に対して、定義やルールに従って複数のプロセスを経て論理的に展開され、結論が導き出されるものです。単に数学の定義や 定理・公式などの「知識」や問題解法を単発的に丸暗記し、知識量を増やしたとしても、それらを単純にあてはめる事で問題が解けるようになることはありません。問題を解くには、まずはそのパターンを認識できるかが大切だと思います。数学の問題を解くにあたって考えるというのは、問題文を読んで、問題が示す条件と既知の知識との間に類似性と差異を見出すことなのだと思います。そこで復習が大事になります。理由の一つは、「自分が何をどれくらい理解できているのか」「何が理解できていないのか」を明確にすることです。自分の理解が十分な部分、または弱点を把握しておく、ということは、その後の学習計画を立てる際に大いに参考になるはずですが、もう一つは「問題を見て、解法の「第一手」が頭に浮かぶかどうか」「解答の流れが頭の中で再生できるかどうか」を確認するという事です。</p>
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

インフルエンザ等による長期休業中における課題	
<p>インフルエンザ等による長期休業中は、教科書とノート(数学ⅡとBは別)を用いて復習を進めておきましょう。方法としては、始めに用語や記号の定義や公式をまとめ、その後に例と例題の問題文と解説・解答を書き写します。その際、疑問点などを書き加えておくと良いでしょう。4プロセスの問題、フォーカスゴールドの例題・練習に挑戦してください。上記の学習の方法を参照してください。</p> <p>シラバスに載っている授業計画をよく見て、どの程度進めるべきかを確認するようにしてください。</p>	

## 高校2年 難関大コース文系 数学B 年間指導計画表

教科目	数学B	2単位(週2時間)
-----	-----	-----------

年間目標	<p>・数列、ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。</p> <p>・数列、ベクトルの考えについて理解し、これらについての数学的活動における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。また、事象を数学的にとらえ、対象を論理的に考察するとともに過程を振り返り多面的・発展的に考える。</p> <p>・数列、ベクトルについての基本的概念を理解し、原理・法則、用語・記号などを適切に扱うことができるようになる。さらに、数学的な考察、数学的な表現・処理の仕方や推論の方法を身につける。</p>
使用教科書	数研出版『高等学校 数学B』
副教材	数研出版『4プロセス 数学Ⅱ+B』、啓林館『フォーカスゴールド数学Ⅱ+B』

学期	区分	単元	内 容	目標・留意点
1 学 期	前 半	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算	1. ベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積	平面上のベクトルの概念を理解し、演算や性質を理解する。
		第2節 ベクトルと平面図形	5. 位置ベクトル 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示	位置ベクトルを用いて、点を表現できるようにする。また、直線や円の方程式をベクトルで表し、媒介変数表示の理解を深める。
	後 半	第2章 空間のベクトル	1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用 発展 同じ平面上にある点 6. 座標空間における図形	空間の座標を定め、空間の点も座標を用いて表すことを知らせる。
		第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列	1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和 研究 複利計算	数列の概念を理解し、等差数列・等比数列の理解を深める。また、 $\Sigma$ の記号の意味を理解し、和の計算を出来るようにする。
2 学 期	前 半	第2節 いろいろな数列	6. 和の記号 $\Sigma$ 7. 階差数列 8. いろいろな数列の和	
		第3節 数学的帰納法	9. 漸化式 研究 $a_{n+1}=pa_n+q$ を満たす数列の階差数列 発展 隣接3項間の漸化式	数列の機能的定義を理解し、漸化式から数列の一般項を求められるようにする。
3 期 学		第3節 数学的帰納法	10. 数学的帰納法	
		総復習		数学ⅡBの総復習(基礎学力到達度テストに向けて)

評価方法等	<p>1 定期試験の成績 知識・理解に偏ることなく、数学的な考え方、表現・処理をみるための問題も出題します。</p> <p>2 学習態度等の平常点 課題の提出状況・課題テスト・小テストの成績などを評価します。</p> <p>1、2を本校評価法に合わせて判断します。</p>
-------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習方法	<p>1. 教科書をよく読み、その単元での要点を押さえる</p> <p>2. 要点をノートにまとめる</p> <p>3. 教科書の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する</p> <p>4. 問題集の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する</p> <p>5. 例題の下にある問題を解いて、理解を深める</p> <p>6. 参考書を使って、問題を解く(解法のポイントや要点もまとめる)</p>	} 予習の時	
		} 復習の時	

注意事項	<p>数学の問題の解法は、設問に対して、定義やルールに従って複数のプロセスを経て論理的に展開され、結論が導き出されるものです。単に数学の定義や 定理・公式などの「知識」や問題解法を単発的に丸暗記し、知識量を増やしたとしても、それらを単純にあてはめる事で問題が解けるようになることはありません。問題を解くには、まずはそのパターンを認識できるかが大切だと思います。数学の問題を解くにあたって考えるというのは、問題文を読んで、問題が示す条件と既知の知識との間に類似性と差異を見出すことなのだと思います。そこで復習が大事になります。理由の一つは、「自分が何をどれくらい理解できているのか」「何が理解できていないのか」を明確にすることです。自分の理解が十分な部分、または弱点を把握しておく、ということは、その後の学習計画を立てる際に大いに参考になるはずですが、もう一つは「問題を見て、解法の「第一手」が頭に浮かぶかどうか」「解答の流れが頭の中で再生できるかどうか」を確認するという事です。</p>
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

インフルエンザ等による長期休業中における課題

インフルエンザ等による長期休業中は、教科書とノート(数学ⅡとBは別)を用いて復習を進めておきましょう。方法としては、始めに用語や記号の定義や公式をまとめ、その後に例と例題の問題文と解説・解答を書き写します。その際、疑問点などを書き加えておく方が良いでしょう。4プロセスの問題、フォーカスゴールドの例題・練習に挑戦してください。上記の学習の方法を参照してください。  
シラバスに載っている授業計画をよく見て、どの程度進めるべきかを確認するようにしてください。

## 高校2年 難関大コース 理系 数学B 年間指導計画表

教科目	数学B	4単位(週4時間)	
年間目標	<p>・図形と方程式、数列、ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。</p> <p>・図形と方程式、数列、ベクトルの考えについて理解し、これらについての数学的活動における考え方に興味をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。また、事象を数学的にとらえ、対象を論理的に考察するとともに過程を振り返り多面的・発展的に考える。</p> <p>・図形と方程式、数列、ベクトルについての基本的概念を理解し、原理・法則、用語・記号などを適切に扱うことができるようになる。さらに、数学的な考察、数学的な表現・処理の仕方や推論の方法を身につける。</p>		
使用教科書	数研出版『高等学校 数学Ⅱ』、『高等学校 数学B』		
副教材	数研出版『4プロセス 数学Ⅱ+B』、啓林館『フォーカスゴールド数学Ⅱ+B』		

数学B					
学期	区分	単元	内容	目標・留意点	
第1学期	前半	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算	1. ベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積	平面上のベクトルの概念を理解し、演算や性質を理解する。	
		第2節 ベクトルと平面図	5. 位置ベクトル 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示	位置ベクトルを用いて、点を表現できるようにする。また、直線や円の方程式をベクトルで表し、媒介変数表示の理解を深める。	
	後半	第2章 空間のベクトル	1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用 発展 同じ平面上にある点 6. 座標空間における図形	空間の座標を定め、空間の点も座標を用いて表すことを知らせる。	
		第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係	座標平面上において図形とその方程式の関係を明らかにし直線の方程式、二直線の平行条件・垂直条件点と直線の距離について理解し自在な取り扱いができるようにする。	
	第2学期	前半	第2節 円	5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円 研究 2つの円の交点を通る図形	円の方程式を理解し、円と直線との問題に活用できるようにする。
			第3節 軌跡と領域	8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域 研究 放物線を境界線とする領域	直線や円が条件を満たす点の集合であることを理解し、不等式が領域を表していることを理解する。
後半		第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列	1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和 研究 複利計算	数列の概念を理解し、等差数列・等比数列の理解を深める。また、 $\Sigma$ の記号の意味を理解し、和の計算を出来るようにする。	
		第2節 いろいろな数列 第3節 数学的帰納法	6. 和の記号 $\Sigma$ 7. 階差数列 8. いろいろな数列の和 9. 漸化式 研究 $a_{n+1}=pa_n+q$ を満たす数列の階差数列 発展 隣接3項間の漸化式 10. 数学的帰納法	数列の機能的定義を理解し、漸化式から数列の一般項を求められるようにする。	
第3学期		総復習		2年生の総復習	

評価方法等	1 定期試験の成績 知識・理解に偏ることなく、数学的な考え方、表現・処理をみるための問題も出題します。
-------	--------------------------------------------------------

学習方法	1. 教科書をよく読み、その単元での要点を押さえる  2. 要点をノートにまとめる  3. 教科書の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する 4. 問題集の例題をノートに写しながら、問題の解き方を理解する	} 予習の時
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------

5. 例題の下にある問題を解いて、理解を深める

6. 参考書を使って、問題を解く(解法のポイントや要点もまとめる)

復習の時

注意事項 数学の問題の解法は、設問に対して、定義やルールに従って複数のプロセスを経て論理的に展開され、結論が導き出されるも

#### インフルエンザ等による長期休業中における課題

インフルエンザ等による長期休業中は、教科書とノート(数学ⅡとBは別)を用いて復習を進めておきましょう。方法としては、始めに用語や記号の定義や公式をまとめ、その後に例と例題の問題文と解説・解答を書き写します。その際、疑問点などを書き加えておく和良好的でしょう。4プロセスの問題、フォーカスゴールドの例題・練習に挑戦してください。上記の学習の方法を参照してください。

シラバスに載っている授業計画をよく見て、どの程度進めるべきかを確認するようにしてください。

## 高校2年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	物理基礎 理系(2単位)
年間目標	自然界の法則を数学を用いて表現する技能とその活用を学び、基本法則が思考の系統樹によって展開することで、多岐に渡る自然現象を説明することができることを知る。
使用教科書	東京書籍 『物理基礎』
使用補助教材	第一学習社『改定 ネオパルノート』

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	1編 物体の運動とエネルギー 1章 速度・加速度 1. 速さと等速直線運動 2. 直線運動の加速度 2章 ささまざまな力とそのはたらき 1. 力とつり合い	変位と速度・相対速度・速度の合成 等速直線運動・加速度・等加速度直線運動 力の図示・力のつりあい 力の合成・分解・3力のつりあい 作用と反作用	・相対速度は速度の合成を使って表現できることを理解 ・それぞれの運動を表すグラフをかく ・等加速度直線運動の公式の導出と理解 ・力の3要素を説明 ・力のつりあいを図を使って示す ・作用・反作用の定義の理解
	後 半	2. 運動の法則 3. ささまざまな運動とはたらく力	運動方程式・力の単位・運動方程式の作り方 自由落下・投げ上げ・放物運動 摩擦力・液体中の運動・空気中の運動 水圧・浮力	・運動方程式を正確に理解し書き下せるようにする ・力の単位の定義 ・質量と重さの区別 ・自由落下運動の式を説明 ・鉛直投射の初速度の向きを変えて式を立てる ・静止摩擦力・最大摩擦力・動摩擦力 ・2つの物体についての運動方程式を立てる ・空気抵抗力や浮力が働く場合の運動で、力を図で表す
2 学 期	前 半	3章 電気と磁気 1. 電流と電気抵抗	電流と電子・オームの法則・電圧降下 抵抗の直列接続・並列接続・ジュール熱	・電気の正体について意欲的に探究 ・オームの法則と電気抵抗の関係を説明 ・抵抗の直列接続・並列接続の実験
	後 半	2. 電流と磁界 3. 交流と電磁波	磁場・電流が作る磁場 電磁誘導・モーターの原理を理解  交流と直流の違いを理解	・右ねじの法則を学び、電流による磁界について理解する。 ・電磁誘導について説明 ・電流が磁界から受ける力を説明 ・送電における交流の利点を知る。
	3. 交流と電磁波	変圧器の構造・電波の正体 熱平衡・熱量・熱容量・分子運動 仕事と内部エネルギー・気体の変化 熱力学第1法則・熱機関	・変圧器の仕組みと電磁波の性質を理解 ・気体の内部エネルギーと熱力学の第1法則を説明 ・エネルギーの変換と保存を図を使って説明 ・熱機関の熱効率を説明	

評価方法	1 定期試験の成績 2 問題演習課題の内容, 実験・観察の技能と報告書内容および授業態度に基づく平常点 1, 2を本校評価法に合わせて判断する。
------	--------------------------------------------------------------------------------

学習方法	問題演習を中心に進めることで、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方の定着をはかる。
------	----------------------------------------------------

注意事項	物理の基礎となる、論理性を養うために、問題演習を進めながら教科書の内容理解の徹底を図る。
------	----------------------------------------------

インフルエンザ等 臨時休校になった 場合の課題	配布の問題集における今年度の既習内容について、各自ノートに演習すること。特に、問題に関連する図や表は必ず記載し、論理的思考を養うこと。登校時にノートを提出。
-------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------

## 高校2年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	物理基礎 理系(2単位)
年間目標	自然界の法則を数学を用いて表現する技能とその活用を学び、基本法則が思考の系統樹によって展開することで、多岐に渡る自然現象を説明することができることを知る。
使用教科書	東京書籍 『物理基礎』
使用補助教材	第一学習社『セミナー物理基礎』

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	1編 物体の運動とエネルギー 1章 速度・加速度 1. 速さと等速直線運動 2. 直線運動の加速度 2章 さまざまな力とそのはたらき 1. 力とつり合い	変位と速度・相対速度・速度の合成 等速直線運動・加速度・等加速度直線運動 力の図示・力のつりあい 力の合成・分解・3力のつりあい 作用と反作用	・相対速度は速度の合成を使って表現できることを理解 ・それぞれの運動を表すグラフをかく ・等加速度直線運動の公式の導出と理解 ・力の3要素を説明 ・力のつりあいを図を使って示す ・作用・反作用の定義の理解
	後 半	2. 運動の法則 3. さまざまな運動とはたらく力	運動方程式・力の単位・運動方程式の作り方 自由落下・投げ上げ・放物運動 摩擦力・液体中の運動・空気中の運動 水圧・浮力	・運動方程式を正確に理解し書き下せるようにする ・力の単位の定義 ・質量と重さの区別 ・自由落下運動の式を説明 ・鉛直投射の初速度の向きを変えて式を立てる ・静止摩擦力・最大摩擦力・動摩擦力 ・2つの物体についての運動方程式を立てる ・空気抵抗力や浮力が働く場合の運動で、力を図で表す
2 学 期	前 半	3章 電気と磁気 1. 電流と電気抵抗	電流と電子・オームの法則・電圧降下 抵抗の直列接続・並列接続・ジュール熱	・電気の正体について意欲的に探究 ・オームの法則と電気抵抗の関係を説明 ・抵抗の直列接続・並列接続の実験
	後 半	2. 電流と磁界 3. 交流と電磁波	磁場・電流が作る磁場 電磁誘導・モーターの原理を理解  交流と直流の違いを理解	・右ねじの法則を学び、電流による磁界について理解する。 ・電磁誘導について説明 ・電流が磁界から受ける力を説明 ・送電における交流の利点を知る。
	3. 交流と電磁波	変圧器の構造・電波の正体 熱平衡・熱量・熱容量・分子運動 仕事と内部エネルギー・気体の変化 熱力学第1法則・熱機関	・変圧器の仕組みと電磁波の性質を理解 ・気体の内部エネルギーと熱力学の第1法則を説明 ・エネルギーの変換と保存を図を使って説明 ・熱機関の熱効率を説明	

評価方法	1 定期試験の成績 2 問題演習課題の内容, 実験・観察の技能と報告書内容および授業態度に基づく平常点 1, 2を本校評価法に合わせて判断する。
------	--------------------------------------------------------------------------------

学習方法	問題演習を中心に進めることで、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方の定着をはかる。
------	----------------------------------------------------

注意事項	物理の基礎となる、論理性を養うために、問題演習を進めながら教科書の内容理解の徹底を図る。
------	----------------------------------------------

インフルエンザ等 臨時休校になった 場合の課題	配布の問題集における今年度の既習内容について、各自ノートに演習すること。特に、問題に関連する図や表は必ず記載し、論理的思考を養うこと。登校時にノートを提出。
-------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------

## 高校2年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	化学(3単位)
年間目標	酸化還元反応からさらに複雑な理論化学分野を学び、後半は無機化学について、理解・活用ができるようになる。
使用教科書	第一学習社 『高等学校 化学』
使用補助教材	第一学習社 『セミナー化学基礎+化学』 第一学習社 『スクエア最新図説化学』

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	化学 第Ⅱ章 物質の変化と平衡 第2節 電池と電気分解	電池 電気分解	酸化還元、イオン化傾向、電池、電気分解について、電子の授受的視点から把握し、活用できるようにする。
	後 半	化学 第Ⅲ章 無機物質 第1節 非金属元素の単体と化合物	水素と希ガス ハロゲン 酸素と硫黄 硫酸 窒素とリン 硝酸 炭素と珪素 気体の性質	無機物質の特徴・性質について、身の回りのものと関連付けて学習し、理解する。また、実験を通して理解を深める。
	後 半	化学 第Ⅲ章 無機物質 第2節 典型金属元素の単体とその化合物 第3節 遷移元素の単体とその化合物	アルカリ金属 アルカリ土類金属 両性元素 遷移元素と錯イオン 鉄とその化合物 銅銀とその化合物 クロム・マンガン イオンの沈殿反応 イオンの検出 金属イオンの分離と確認	
2 学 期	前 半	化学 第Ⅱ章 物質の変化と平衡 第1節 物質とエネルギー 化学 第Ⅰ章 物質の状態 第1節 化学結合と結晶 第2節 物質の三態変化 第3節 気体の性質	反応熱と熱化学方程式 ヘスの法則 結晶とアボガドロ定数 充填率 気体の諸法則 理想気体	
	後 半	化学 第Ⅰ章 物質の状態 第4節 溶液の性質 化学 第Ⅱ章 物質の変化と平衡 第3節 化学反応の速さ	希薄溶液の性質 コロイド 反応熱と熱化学方程式 化学反応の速度と濃度・圧力・温度・触媒	
	3 学 期	第4節 化学平衡	可逆反応と平衡	

評価方法	1 定期試験の成績 2 学習態度等の平常点 1、2を本校評価法に合わせて判断する。
------	-------------------------------------------------

学習方法	授業中に行う問題演習、および問題集を使った演習を行う。
------	-----------------------------

注意事項	理系は進むペースが非常に速いため、各自しっかりと準備を行うこと。また、必要に応じて発展的な内容に触れることがある。先取りできる場合には、前倒しをして教えることがある。
------	-------------------------------------------------------------------------------------

インフルエンザ等 臨時休校になった 場合の課題	問題集における今年度の既習内容について、各自演習しておくこと。
-------------------------------	---------------------------------

## 高校2年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	化学(3単位)
年間目標	酸化還元反応や無機化学、有機化学について、理解・活用ができるようになる。
使用教科書	第一学習社 『高等学校 化学』
使用補助教材	第一学習社 『セミナー化学基礎+化学』 第一学習社 『スクエア最新図説化学』

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	化学 第Ⅱ章 物質の変化と平衡 第2節 電池と電気分解	電池・電気分解	酸化還元、イオン化傾向、電池、電気分解について、電子の授受的視点から把握し、活用できるようにする。
	後 半	化学 第Ⅲ章 無機物質 第1節 非金属元素の単体と化合物	水素と希ガス ハロゲン	
2 学 期	前 半	化学 第Ⅲ章 無機物質 第1節 非金属元素の単体と化合物	酸素と硫黄 硫酸 窒素とリン 硝酸 炭素と珪素 気体の性質	無機物質の特徴・性質について、身の回りのものと関連付けて学習し、理解する。また、実験を通して理解を深める。
	後 半	化学 第Ⅲ章 無機物質 第2節 典型金属元素の単体とその化合物	アルカリ金属 アルカリ土類金属 両性元素	
3 学 期	前 半	化学 第Ⅲ章 無機物質 第2節 典型金属元素の単体とその化合物 第3節 遷移元素の単体とその化合物	遷移元素と錯イオン 鉄とその化合物 銅銀とその化合物 クロム・マンガン イオンの沈殿反応 イオンの検出 金属イオンの分離と確認	無機物質の特徴・性質について、身の回りのものと関連付けて学習し、理解する。また、実験を通して理解を深める。
	後 半	化学 第Ⅳ章 有機化合物 第1節 有機化合物の特徴と構造 第2節 脂肪族炭化水素 第3節 酸素を含む脂肪族化合物	有機化合物の特徴 有機化合物の分類 有機化合物の表し方 異性体 炭化水素の分類・構造 炭化水素の性質と構造 アルコール エーテル アルデヒド ケトン カルボン酸 エステル 油脂セッケン 芳香族炭化水素 フェノール類 芳香族カルボン酸 アミン 混合物の分離	
3 学 期		化学 第Ⅱ章 物質の変化と平衡 第1節 物質とエネルギー	化学変化とエネルギー 熱化学方程式 ヘスの法則	化学変化の際に起こる熱の出入りを理解する。 式の上で熱量を計算できる。

評価方法	1 定期試験の成績 2 学習態度等の平常点 1、2を本校評価法に合わせて判断する。
------	-------------------------------------------------

学習方法	授業中に行う問題演習、および問題集を使った演習を行う。
------	-----------------------------

注意事項	理系は進むペースが非常に速いため、各自しっかりと準備を行うこと。また、必要に応じて発展的な内容に触れることがある。先取りできる場合には、前倒しをして教えることがある。
------	-------------------------------------------------------------------------------------

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	問題集における今年度の既習内容について、各自演習しておくこと。
-----------------------	---------------------------------

## 高校2年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	理科課題研究(物理) (3単位)
年間目標	物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につける。また、物理的に探究する能力と態度、科学的な見方や考え方を身につける。
使用教科書	東京書籍『物理』
使用補助教材	数研出版『セミナー物理』

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	2章 波(物理基礎) 1. 波の性質  2. 音と振動	水面波・媒質の振動 波長・振幅・周期・速さ・振動数 波のグラフ・振動のグラフ 横波・縦波・重ね合わせ・干渉・定常波 音波・音の速さ・音の3要素 干渉・うなり・反射・回折・ 弦の定常波と固有振動・耳に聞こえる音 気柱の定常波と固有振動・閉管・開管・疎密変化 固有振動と共振・共鳴	・波の要素の波長・振幅・周期・振動数・速さ・位相の理解 ・波の伝わる速さを振動数と波長で表す ・波の伝わり方で横波と縦波に分類 ・定常波のでき方を作図 ・音の3要素を説明 ・音波の回折と反射を生活のなかの現象で説明 ・弦の振動の実験で定常波の腹や節を確認 ・音の共鳴実験で干渉による音の強弱を体験を通して理解
	後 半	問題演習 セミナー物理基礎 (物体の運動)  1編 力と運動 2章 さまざまな運動① 1. 平面上の運動 2. 放物運動	変位と速度・相対速度・速度の合成 等速直線運動・加速度・等加速度直線運動 自由落下・投げ上げ・放物運動 等速円運動の速度・周期・角速度・加速度	・相対速度は速度の合成を使って表現できることを理解 ・ $x-t$ および $v-t$ グラフから読み取れる運動と物理量を理解 ・等加速度直線運動の公式から各運動の式を導出 ・放物運動を成分に分けて理解できることを説明
2 学 期	前 半	3章 力学的エネルギー(物理基礎) 1. 仕事 2. 運動エネルギーと位置エネルギー 3. 力学的エネルギーとその保存 3章 さまざまな運動② 1. 円運動 2. 慣性力 3. 万有引力	仕事の定義・仕事の原理・仕事率 運動エネルギー・負の仕事 重力による位置エネルギー・弾性エネルギー 力学的エネルギー保存の法則 および向心力・遠心力 加速度運動する物体の慣性力 ケプラーの法則 万有引力の法則とその位置エネルギー	・仕事の定義と仕事の原理を正しく説明 ・運動エネルギーと仕事の関係を説明 ・重力による位置エネルギーの式を正確に理解 ・力学的エネルギー保存則について説明 ・円運動をする物体の様子を表す方法や観測者が加速度運動をするときの慣性力、および円運動での遠心力について理解 ・惑星と人工衛星の運動がいずれも万有引力を受けたときの物体の運動として統一的に理解する。
	後 半	4章 さまざまな運動③ 1. 単振動 1章 剛体にはたらく力のつり合い 1. 力のつり合いと合成・分解 2. 力のモーメント	単振動する物体の位置・速度・加速度 ばね振り子・単振り子の周期・復元力 剛体のつりあい・力のモーメント・重心 偶力のモーメント	・単振動と等速円運動を関連付けて理解 ・位置、速度、加速度の表し方を学び、変位に比例する大きさの復元力が働くことを理解 ・剛体における2力の合成を作図・剛体の重心を作図と式で表す ・剛体の力のつり合いおよび力のモーメントのつり合いの条件を説明
3 学 期	学 期	3編 波 1章 波の性質 1. 波の表し方 2. 波の伝わり方	波のグラフ・振動のグラフ・横波・縦波 重ね合わせ・干渉・定常波 波面・ホイヘンスの原理・回折・反射・屈折	・波の要素の波長・振幅・周期・振動数・速さ・位相の理解 ・波の伝わる速さを振動数と波長で表す ・波の伝わり方で横波と縦波に分類 ・定常波のでき方を作図 ・ホイヘンスの原理を理解し、反射・屈折を作図
		2章 音 1. 音の性質 2. ドップラー効果 3章 光 1. 光の伝わり方 2. 光の回折と干渉 3. レンズと鏡	干渉・うなり・反射・回折・ ドップラー効果と音源・観測者の運動 色と光の波長・光の速さ・直進性・反射・屈折 虚像・実像・浮き上がり スペクトル・偏光 ヤングの干渉実験・回折格子・薄膜干渉 凸レンズ・凹レンズを通る光と像	・音波の回折と反射を生活のなかの現象で説明 ・ドップラー効果の仕組みを作図で理解 ・ドップラー効果を式で表す ・光の屈折の式を理解・相対屈折率、絶対屈折率を説明 ・光のスペクトル・分散について観察を通して理解 ・ヤングの実験を作図を用いて理解し、波長を求める ・光の回折と干渉を利用して波長の測定 ・凸レンズ・凹レンズ・鏡の性質を作図

評価方法	1 定期試験の成績
------	-----------

学習方法	問題演習を中心に進めることで、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方の定着をはかる。
------	----------------------------------------------------

注意事項	物理の基礎となる、論理性を養うために、問題演習を進めながら教科書の内容理解の徹底を図る。
------	----------------------------------------------

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	配布の問題集における今年度の既習内容について、各自ノートに演習すること。特に、問題に関連する図や表は必ず記載し、論理的思考を養うこと。登校時にノートを提出。
-----------------------	--------------------------------------------------------------------------------

## 高校2年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	理科課題研究(物理) (3単位)
年間目標	物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につける。また、物理的に探究する能力と態度、科学的な見方や考え方を身につける。
使用教科書	東京書籍『物理』
使用補助教材	数研出版『セミナー物理』

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	2章 波(物理基礎) 1. 波の性質  2. 音と振動	水面波・媒質の振動 波長・振幅・周期・速さ・振動数 波のグラフ・振動のグラフ 横波・縦波・重ね合わせ・干渉・定常波 音波・音の速さ・音の3要素 干渉・うなり・反射・回折・ 弦の定常波と固有振動・耳に聞こえる音 気柱の定常波と固有振動・閉管・開管・疎密変化 固有振動と共振・共鳴	・波の要素の波長・振幅・周期・振動数・速さ・位相の理解 ・波の伝わる速さを振動数と波長で表す ・波の伝わり方で横波と縦波に分類 ・定常波のでき方を作図 ・音の3要素を説明 ・音波の回折と反射を生活のなかの現象で説明 ・弦の振動の実験で定常波の腹や節を確認 ・音の共鳴実験で干渉による音の強弱を体験を通して理解
	後 半	問題演習 セミナー物理基礎 (物体の運動)  1編 力と運動 2章 さまざまな運動① 1. 平面上の運動 2. 放物運動	変位と速度・相対速度・速度の合成 等速直線運動・加速度・等加速度直線運動 自由落下・投げ上げ・放物運動 等速円運動の速度・周期・角速度・加速度	・相対速度は速度の合成を使って表現できることを理解 ・ $x-t$ および $v-t$ グラフから読み取れる運動と物理量を理解 ・等加速度直線運動の公式から各運動の式を導出 ・放物運動を成分に分けて理解できることを説明
2 学 期	前 半	3章 力学的エネルギー(物理基礎) 1. 仕事 2. 運動エネルギーと位置エネルギー 3. 力学的エネルギーとその保存 3章 さまざまな運動② 1. 円運動 2. 慣性力 3. 万有引力	仕事の定義・仕事の原理・仕事率 運動エネルギー・負の仕事 重力による位置エネルギー・弾性エネルギー 力学的エネルギー保存の法則 および向心力・遠心力 加速度運動する物体の慣性力 ケプラーの法則 万有引力の法則とその位置エネルギー	・仕事の定義と仕事の原理を正しく説明 ・運動エネルギーと仕事の関係を説明 ・重力による位置エネルギーの式を正確に理解 ・力学的エネルギー保存則について説明 ・円運動をする物体の様子を表す方法や観測者が加速度運動をするときの慣性力、および円運動での遠心力について理解 ・惑星と人工衛星の運動がいずれも万有引力を受けたときの物体の運動として統一的に理解する。
	後 半	4章 さまざまな運動③ 1. 単振動 1章 剛体にはたらく力のつり合い 1. 力のつり合いと合成・分解 2. 力のモーメント	単振動する物体の位置・速度・加速度 ばね振り子・単振り子の周期・復元力 剛体のつりあい・力のモーメント・重心 偶力のモーメント	・単振動と等速円運動を関連付けて理解 ・位置、速度、加速度の表し方を学び、変位に比例する大きさの復元力が働くことを理解 ・剛体における2力の合成を作図・剛体の重心を作図と式で表す ・剛体の力のつり合いおよび力のモーメントのつり合いの条件を説明
3 学 期	学 期	3編 波 1章 波の性質 1. 波の表し方 2. 波の伝わり方	波のグラフ・振動のグラフ・横波・縦波 重ね合わせ・干渉・定常波 波面・ホイヘンスの原理・回折・反射・屈折	・波の要素の波長・振幅・周期・振動数・速さ・位相の理解 ・波の伝わる速さを振動数と波長で表す ・波の伝わり方で横波と縦波に分類 ・定常波のでき方を作図 ・ホイヘンスの原理を理解し、反射・屈折を作図
		2章 音 1. 音の性質 2. ドップラー効果 3章 光 1. 光の伝わり方 2. 光の回折と干渉 3. レンズと鏡	干渉・うなり・反射・回折・ ドップラー効果と音源・観測者の運動 色と光の波長・光の速さ・直進性・反射・屈折 虚像・実像・浮き上がり スペクトル・偏光 ヤングの干渉実験・回折格子・薄膜干渉 凸レンズ・凹レンズを通る光と像	・音波の回折と反射を生活のなかの現象で説明 ・ドップラー効果の仕組みを作図で理解 ・ドップラー効果を式で表す ・光の屈折の式を理解・相対屈折率、絶対屈折率を説明 ・光のスペクトル・分散について観察を通して理解 ・ヤングの実験を作図を用いて理解し、波長を求める ・光の回折と干渉を利用して波長の測定 ・凸レンズ・凹レンズ・鏡の性質を作図

評価方法	1 定期試験の成績
------	-----------

学習方法	問題演習を中心に進めることで、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方の定着をはかる。
------	----------------------------------------------------

注意事項	物理の基礎となる、論理性を養うために、問題演習を進めながら教科書の内容理解の徹底を図る。
------	----------------------------------------------

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	配布の問題集における今年度の既習内容について、各自ノートに演習すること。特に、問題に関連する図や表は必ず記載し、論理的思考を養うこと。登校時にノートを提出。
-----------------------	--------------------------------------------------------------------------------

## 高校2年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	理科課題研究(生物) (3単位)
年間目標	(基礎学力到達度テストに備え)生徒の生物学的考察力が自然と向上する生物学を目指す。
使用教科書	数研出版 『生物』
使用補助教材	数研出版 『リードα 生物基礎+生物』 浜島書店 『ニューステージ 新生物図説』(資料集)

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
第一学期	前半	第1編 生命現象と物質 第1章 細胞と分子 1 生体の構造 2 タンパク質の構造と性質 3 酵素の働き 4 細胞の構造とはたらき 5 細胞の活動とタンパク質	細胞膜の3つの性質 アクチンフィラメント、微小管、中間径フィラメント アミノ酸、アミノ基、カルボキシ基、側鎖 変性 輸送タンパク質(イオンポンプ、イオンチャネル) 受容体 標的器官 セカンドメッセンジャー モータータンパク質 ダイニン 酵素のはたらき、性質 基質濃度と酵素の反応速度の関係	生物基礎で学習した細胞小器官の構造と機能をさらに発展させた内容で授業展開する。選択透過性、半透性、能動輸送を理解させる。アクチンフィラメント、微小管、中間径フィラメントのそれぞれの特徴をまとめる。アミノ酸の構造を理解させる。身近な変性の例から学ぶ。輸送タンパク質の機能を理解させる。能動輸送や受動輸送と関連づけて、膜電位の変化についても学習する。
	後半	第2章 代謝とエネルギー 1 代謝とエネルギー 2 呼吸と発酵 3 光合成 4 窒素同化	ATPの構造、役割 好気呼吸と嫌気呼吸 光合成	細胞内への情報伝達手段について授業する。筋収縮や原形質流動にはタンパク質が関与していることを授業展開する。  酵素については、基質との反応の速度のグラフ等も取り扱う。  生物の生を支える化学物質であるATPの役割を理解し、ATPが関与する諸現象についての理解する。
第二学期	前半			
	後半	第3章 遺伝情報の発現 1 DNAの構造と複製 2 遺伝情報の発現	DNAの構造、役割 DNAの塩基配列とタンパク質合成の関係 遺伝子の発現による形質発現	生命の設計図であるDNAの構造を記憶し、DNA情報からタンパク質が生成される過程について理解する。細胞の分化の時期、種類を決定するのは遺伝子であることを学ぶ。
第三学期		3 遺伝子の発現調節 4 バイオテクノロジー	遺伝子発現の調節のしくみ ホメオティック遺伝子、調節遺伝子 PCR法 クローニング アフリカツメガエルの核移植実験 トランスジェニック生物 遺伝子組換え	現在行われているバイオテクノロジーの詳細について学び、理解する。

評価方法	1 定期試験の成績 2 提出物(問題集・授業用ノート・実験レポート)、学習態度等の平常点 1、2を本校評価法に合わせて判断する。
------	------------------------------------------------------------------------

学習方法	プリント形式・実験実習・教育工学機器(VTR教材・パワーポインター)を利用した授業を展開し、学習意欲を高める。 授業内容の定着を達成するために、問題集(考察問題を中心)で定着をはかる。 昨年度の学習内容の定着させるために、小テストを実施し、基礎学力到達度テストに備える。 定期テスト対策として、基礎基本問題の解法だけでなく、考察問題の解法も講義する。
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

注意事項	授業を休まないこと。授業を真剣に受けること。授業に積極的に参加すること。問題を何度も解き直すこと。
------	---------------------------------------------------

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	問題集を扱います。
-----------------------	-----------

## 高校2年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	保健体育(3単位)
年間目標	中学時代に養われた基礎体力を見直し、よりいっそうの体力向上を心がけ運動能力を高めスポーツの本当の楽しさや感動を味わい自らの適性を見出す。また指導力をも身に付け、良識ある社会人、生涯スポーツへの基盤となるようつとめる。
使用教科書	大修館『イラストによる最新スポーツルール』
使用補助教材	

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期		マット運動(A・B・C・D) ハンドボール(E・F・G・H) バスケットボール(女子)	<p>マット運動</p> <p>回転系練習 前転 後転 開脚前転 開脚後転 伸膝前転 伸膝後転 倒立前転 跳びこみ前転 後転倒立 側方倒立回転</p> <p>本転技系練習 頭はね起き 前方倒立回転跳び</p> <p>バスケットボール</p> <p>個人的技術向上 ジャンプシュート レイアップ シュート 速攻 カットインプレーなどの向上 集団的技術向上 3対3などディフェンス・ オフェンス練習 ゲームレベルの向上</p>	<p>マット運動</p> <p>前方倒立回転跳びを全員ができるようにする。 前方倒立回転跳び→跳びこみ前転 伸膝後転→後転→開脚後転 倒立前転→開脚前転→側転→バランス 少しの気の緩みが怪我につながりやすいので、 常に体調を整え、気を引き締めて行う。 仲間との練習で互いに補助しあい、生徒と協力 をして行う。</p> <p>バスケットボール</p> <p>ゲームに必要なパス・ドリブル・ショットなどボールを扱 う技術向上。 集団的スキルを高めてゲームを楽しむ。 互いに協力して効果的な練習・ゲームを行う。 試合を通じてルール・マナーを守ることを覚える。</p>
		ハンドボール(A・B・C・D) バスケットボール(E・F・G・H) バドミントン(女子)	<p>ハンドボール</p> <p>さまざまなパスとキャッチ フットワーク 初歩のショット(ステップ・ジャンプ) 技術的練習ではショットを中心に、 パス・キャッチはショットに結びつけて練習。 ゲームを通して流れを身に付ける。</p> <p>バレーボール</p> <p>基本技術練習</p>	<p>ハンドボール</p> <p>ハンドボールを通して走る、投げる、跳ぶなど基礎 体力を身に付ける。 集団的・個人的技能の向上・ゲームを通して責 任感・協調性を身に付ける。 校庭・床がすべりにくいので、思わぬ怪我をする ことがあるので十分に気をつける。 また手指などを痛めやすいので、準備運動を しっかりと行う。</p>
2 学 期		バスケットボール(A・B・C・D) マット運動(E・F・G・H) バレーボール(女子)	<p>バスケットボール</p> <p>パス(オーバー、アンダー) サーブ(アンダー、フロッター) スパイク アタック練習 試合形式練習</p> <p>バドミントン</p> <p>歴史、施設用具、ルール、特性について 基本運動、補強運動 ストローク(オーバーヘッド、アンダーハンド、 サイドアーム) サービス(ロング、ショート) スマッシュ 簡易ゲーム</p>	<p>バレーボール</p> <p>個人技能とチームワークを磨き、ラリーの続くゲーム。 ボールにのる、人や壁などへの接触、ネットの準備・ 片づけの時などに起こりやすい怪我に注意する。 ルールを守り、公正な態度でゲームを行うようにする。</p> <p>バドミントン</p> <p>バドミントンの技能や体力を向上させるとともに、 状況を判断する能力や戦術を選択する能力を 育てる。ルールやマナーを守り、責任を果たす態度 を育てる。 捻挫などの怪我をしないように準備運動を 十分行う。</p>
		バスケットボール(A・B・C・D) ハンドボール(E・F・G・H) バレーボール(女子) バドミントン(女子)	<p>バスケットボール</p> <p>ドリブル・シュート・実践での動き ハンドボール ステップシュート・ジャンプシュートなどを含めたシュート・実践での動き バレーボール 各学期に実技試験 バドミントン きほん打ちの動作・実践での動き</p>	
3 学 期		バスケットボール(A・B・C・D) ハンドボール(E・F・G・H) バレーボール(女子) バドミントン(女子)		

評価方法	<p>マット運動 試験種目である連続技の結果を評価</p> <p>バスケットボール ドリブル・シュート・実践での動き</p> <p>ハンドボール ステップシュート・ジャンプシュートなどを含めたシュート・実践での動き</p> <p>バレーボール 各学期に実技試験</p> <p>バドミントン きほん打ちの動作・実践での動き</p>
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習方法	男女別で実施。男子はクラス単位、女子はAE合同、BF合同、CG合同、DH合同で行う。
------	--------------------------------------------

注意事項	服装を整え(頭髪・つめ・学校指定の体育着を着用)、準備運動・補強運動をしっかりと行う。
------	---------------------------------------------

インフルエンザ等 臨時休校になった 場合の課題	
-------------------------------	--

## 高校2年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	保健体育(3単位)
年間目標	中学時代に養われた基礎体力を見直し、よりいっそうの体力向上を心がけ運動能力を高めスポーツの本当の楽しさや感動を味わい自らの適性を見出す。また指導力をも身に付け、良識ある社会人、生涯スポーツへの基盤となるようつとめる。
使用教科書	大修館『イラストによる最新スポーツルール』
使用補助教材	

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期		剣道	礼法(立礼・座礼・黙礼・蹲踞) 竹刀の持ち方・構え方・足さばき 素振り(三挙動・一挙動の素振り・前進後退 正面打ち・跳躍素振り) 踏み込み足による打ち方	礼法を正しく身に付け、相手を敬う態度を養う。 正しい基本動作を身に付け、2学期以降の防具を着用しての授業にスムーズに移っていけるようにする。 防具を着用せずに竹刀を扱う活動が中心となる為、周囲への安全の配慮を徹底させ、けがの防止に努めさせる。
2 学 期		剣道	前学期の復習 防具の着け方・整理の仕方 基本打突(面・小手・胴) 仕掛け技(二段技) 打ち込み練習	基礎的技術を正しく身に付け、相手との攻防ができるようにする。 防具を正しく着用させるとともに、常に竹刀の点検をさせ、怪我の防止に努めさせる。 正しい基本動作を身に付け、応用技にスムーズに移ることができるように指導する。
3 学 期		剣道	前学期の復習 仕掛け技(払い技・引き技) 打ち込み練習 互角練習	相手の動きに対応して攻防することにより、敏捷性・協応性などの運動能力を身に付ける。 1年間で学習した技を生かし、相手の動きに対応して自由に使用せ、攻防を楽しませる。寒い時期であるため、特に準備運動をしっかりと行わせることにより、怪我の防止に努めさせる。

評価方法	第1学期 礼法 素振り 第2学期 基本打突 仕掛け技 第3学期 基本打突 打ち込み 仕掛け技
------	------------------------------------------------------

学習方法	クラス単位で行う。
------	-----------

注意事項	服装を整え(頭髪・つめ・学校指定の体育着を着用)、準備運動・補強運動をしっかりと行う。
------	---------------------------------------------

インフルエンザ等 臨時休校になった 場合の課題	
-------------------------------	--

## 高校2年生 年間指導計画表

教科目(単位数)	保健体育(3単位)
年間目標	個人および集団、家庭や地域社会、国、地球全般における生活環境や健康問題、人類の平和と健康に積極的に協力する態度や正しい知識を身に付け社会生活に生かせる能力を育てる。
使用教科書	大修館『現代高等保健体育』
使用補助教材	大修館『現代高等保健ノート』

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期		生涯を通じる健康	「思春期と健康」から 「高齢者のための社会的取り組み」まで	人間の成長過程で身体の形態的発育がほぼ完了しても、体力・精神面の発達はまだ十分でない。それを理解させる教科とする。
2 学 期		生涯を通じる健康 社会生活と健康	「保健制度とその活用」から 「環境衛生活動のしくみと働き」まで	ライフステージから観察し長い人生をどう生きるかを理解する。また、日本の現状はどうであるかを理解させる。
3 学 期		社会生活と健康	「食品衛生活動のしくみと働き」から 「健康的な職業生活」まで	健康に関する環境・食品の問題や、働くことと健康との関係などについて学習する。

評価方法	期末試験による評価および各平常点(ノート検査)
------	-------------------------

学習方法	
------	--

注意事項	宿題としてレポート提出などを利用。教科書・保健ノートを必ず持参させる。
------	-------------------------------------

インフルエンザ等 臨時休校になった 場合の課題	
-------------------------------	--

平成29年度 高校2年生 コミュニケーション英語Ⅱ【日大】 年間指導計画表

教科目(単位数)	高校2年 コミュニケーション英語Ⅱ(4単位)
年間目標	・英語検定準2級合格率70% ・日大チャレンジ模試標準化得点平均52以上
使用教科書	UNICORN English Communication 2 (文英堂)
使用補助教材	UNICORN English Communication 2エッセンシャルワークブック(文英堂) WORD NAVI4500(啓林館)

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	■LESSON1 Through the Eyes of Imagination  ■LESSON2 The Problem We All Live With	① S + V[= be動詞] + C[= that節] ② 必要・義務と推量の助動詞 ③ 強調構文: It is ~ that ... ④ S + V + C[= 分詞] ⑤ to不定詞の受動態 ⑥ 倒置	・教科書の重要表現の暗記 ・新出単語の発音・意味・綴りの習得 ・文法事項の習得
	後 半	■LESSON3 The Debate Girls  ■LESSON4 The International Space Station  ■LESSON5 The Boy who Harnessed the Wind	① to不定詞の完了形 ② to不定詞の否定形 ③ 省略 ④ 未来完了進行形 ⑤ 動名詞の受動態 ⑥ 動名詞の意味上の主語 ⑦ 無生物主語 ⑧ 分詞構文の完了形 ⑨ 付帯状況の 'with': with + 名詞 + 分詞[または 前置詞句など] ⑩ 直接話法と間接話法	・教科書の重要表現の暗記 ・新出単語の発音・意味・綴りの習得 ・文法事項の習得
2 学 期	前 半	■LESSON6 Just My Type  ■LESSON7 The Power of Choosing	① There is S + 分詞 ② 分詞構文の受動態 ③ 同格の表現(3種類) ④ 発展的な比較表限 ⑤ S + V + it + 名詞(形容詞) + that節 ⑥ 名詞構文: 名詞を中心とする表現	・教科書の重要表現の暗記 ・新出単語の発音・意味・綴りの習得 ・文法事項の習得
	後 半	■LESSON8 Global Water Issues  ■LESSON9 The Diving Bell and the Butterfly	① 関係詞whatを用いた慣用句 ② 複合関係詞 ③ 「譲歩」の表現 ④ 独立分詞構文 ⑤ □ It seems that節(複文) ⑥ □ It seems to不定詞(単文) ⑦ ささまざまな「目的」の表現	・教科書の重要表現の暗記 ・新出単語の発音・意味・綴りの習得 ・文法事項の習得
3 学 期		■LESSON10 What is Uniquely Human?  ■LESSON11 Just Enough  ■LESSON12 Reading a Poem	① S + V[= be動詞] + C[= 疑問詞節等] ② 仮定法のいろいろな形 ③ ささまざまな「時」の表現 ④ 動名詞の否定形 ⑤ 動名詞の完了形 ⑥ 仮定法現在[▷ that節中のshouldの省略]⑦ さまざまな「条件」の表現 ⑧ 「未来」を意味するさまざまな表現 ⑨ to不定詞+ 前置詞 ⑩ ささまざまな「否定」の表現	・教科書の重要表現の暗記 ・新出単語の発音・意味・綴りの習得 ・文法事項の習得

評価方法	・定期テスト ・小テスト ・提出物
------	-------------------------

学習方法	教科書を中心に授業を進め、Reading, Listening, Speaking, Writingの4技能を伸ばす。特に文法事項の習得と語彙数の増加を重視し、教科書で使用されている表現を徹底して繰り返し学習させる。
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

注意事項	・生徒同士が常に考え、意見を出し合えるような環境作りをする。 ・毎学期はじめにスピーキングコンテストを実施する。 ・スピーチコンテストを実施する。
------	---------------------------------------------------------------------------------

インフルエンザ等 臨時休校になった 場合の課題	演習プリントを用意し、授業で習ったことの復習・定着をはかる。
-------------------------------	--------------------------------

平成29年度 高校2年生 コミュニケーション英語Ⅱ【難関大】 年間指導計画表

教科目(単位数)	高校2年 コミュニケーション英語Ⅱ(4単位)
年間目標	・英語検定準2級全員合格、2級合格15名以上
使用教科書	UNICORN English Communication 2 (文英堂)
使用補助教材	UNICORN English Communication 2プレミアワークブック(文英堂) WORD NAVI4500(啓林館)

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	■LESSON1 Through the Eyes of Imagination  ■LESSON2 The Problem We All Live With	① S + V[= be動詞] + C[= that節] ② 必要・義務と推量の助動詞 ③ 強調構文: It is ~ that ... ④ S + V + C[= 分詞] ⑤ to不定詞の受動態 ⑥ 倒置	・教科書の重要表現の暗記 ・新出単語の発音・意味・綴りの習得 ・文法事項の習得
	後 半	■LESSON3 The Debate Girls  ■LESSON4 The International Space Station  ■LESSON5 The Boy who Harnessed the Wind	① to不定詞の完了形 ② to不定詞の否定形 ③ 省略 ④ 未来完了進行形 ⑤ 動名詞の受動態 ⑥ 動名詞の意味上の主語 ⑦ 無生物主語 ⑧ 分詞構文の完了形 ⑨ 付帯状況の 'with': with + 名詞 + 分詞[または 前置詞句など] ⑩ 直接話法と間接話法	・教科書の重要表現の暗記 ・新出単語の発音・意味・綴りの習得 ・文法事項の習得
2 学 期	前 半	■LESSON6 Just My Type  ■LESSON7 The Power of Choosing	① There is S + 分詞 ② 分詞構文の受動態 ③ 同格の表現(3種類) ④ 発展的な比較表限 ⑤ S + V + it + 名詞(形容詞) + that節 ⑥ 名詞構文: 名詞を中心とする表現	・教科書の重要表現の暗記 ・新出単語の発音・意味・綴りの習得 ・文法事項の習得
	後 半	■LESSON8 Global Water Issues  ■LESSON9 The Diving Bell and the Butterfly	① 関係詞whatを用いた慣用句 ② 複合関係詞 ③ 「譲歩」の表現 ④ 独立分詞構文 ⑤ □ It seems that節(複文) ⑥ □ It seems to不定詞(単文) ⑦ ささまざまな「目的」の表現	・教科書の重要表現の暗記 ・新出単語の発音・意味・綴りの習得 ・文法事項の習得
3 学 期		■LESSON10 What is Uniquely Human?  ■LESSON11 Just Enough  ■LESSON12 Reading a Poem	① S + V[= be動詞] + C[= 疑問詞節等] ② 仮定法のいろいろな形 ③ ささまざまな「時」の表現 ④ 動名詞の否定形 ⑤ 動名詞の完了形 ⑥ 仮定法現在[▷ that節中のshouldの省略]⑦ さまざまな「条件」の表現 ⑧ 「未来」を意味するさまざまな表現 ⑨ to不定詞 + 前置詞 ⑩ ささまざまな「否定」の表現	・教科書の重要表現の暗記 ・新出単語の発音・意味・綴りの習得 ・文法事項の習得

評価方法	・定期テスト ・小テスト ・提出物
------	-------------------------

学習方法	教科書を中心に授業を進め、Reading, Listening, Speaking, Writingの4技能を伸ばす。特に文法事項の習得と語彙数の増加を重視し、教科書で使用されている表現を徹底して繰り返し学習させる。また、自分自身でそれらを運用できるようにする。
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

注意事項	・生徒同士が常に考え、意見を出し合えるような環境作りをすると同時に、発展的な内容にも取り組む。 ・毎学期はじめにスピーキングコンテストを実施する。 ・スピーチコンテストを実施する。
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------

インフルエンザ等 臨時休校になった 場合の課題	演習プリントを用意し、授業で習ったことの復習・定着をはかる。
-------------------------------	--------------------------------

平成29年度 高校2年生 英語表現Ⅱ【日大文系】年間指導計画表

教科目(単位数)	高校2年 英語表現Ⅱ(4単位)
年間目標	・英語検定準2級合格率70% ・日大チャレンジ模試標準化得点平均53以上
使用教科書	UNICORN English Expression 2 (文英堂)
使用補助教材	INSPIRE 28units (文英堂)、大学入試 頻出語彙・語法問題550 実戦力ビルダー(標準編)、CLOVER 英文法・語法 ランダム演習(入試標準)

学期	区分	単元	内容	目標・留意点	
1 学 期	前半	Further Study5	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 注意すべき仮定法</li> <li>□ 仮定法現在 □ ifの省略</li> <li>□ 文中の語句、分詞、不定詞が表す仮定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法事項を理解する</li> <li>・文法事項を用いて、問題演習を行う</li> <li>・文法事項を用いて、英語で表現をする</li> </ul>	
		Further Study9	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 各種構文(1)</li> <li>□ いろいろな否定表現 □ 強調・倒置</li> </ul>		
		12章	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 接続詞</li> <li>□ 等位接続詞の用法 □ 名詞節を含む構文</li> <li>□ 副詞節を含む構文</li> </ul>		
		Further Study6	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 注意すべき接続詞</li> <li>□ 等位接続詞nor, for, so, yet □ whether節 / if節</li> <li>□ 文中の語句、分詞、不定詞が表す仮定</li> </ul>		
		28章	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 受動態(2)</li> <li>□ 否定文・疑問文の受動態 □ 受動態と文型</li> <li>□ 群動詞の受動態</li> </ul>		
	Further Study1	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 注意すべき受動態</li> <li>□ 動作を表す受動態と状態を表す受動態</li> <li>□ 受動態が好まれる場合 □ 注意が必要な受動態</li> </ul>			
	Further Study3	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 分詞を含む表現</li> <li>□ There + V+ S +分詞 □ &lt;with + (代)名詞 + 分詞&gt;の構文 □ 分詞を含む慣用表現</li> </ul>			
	28章	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 疑問詞</li> <li>□ 疑問代名詞 □ 疑問副詞 □ 間接疑問</li> </ul>			
	後半	Further Study10	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 各種構文(2)</li> <li>□ 省略・挿入・同格 □ 名詞表現・無生物主語</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法事項を理解する</li> <li>・文法事項を用いて、問題演習を行う</li> <li>・文法事項を用いて、英語で表現をする</li> </ul>
		17章	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 動名詞</li> <li>□ 動名詞の用法 □ 動名詞の意味上の主語</li> <li>□ 動名詞のいろいろな形(「時」の表し方/受動態/否定形)</li> </ul>		
Further Study2		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 動名詞と不定詞など</li> <li>□ 動名詞を目的語にする動詞 / 不定詞を目的語にする動詞</li> <li>□ 目的語が動名詞と不定詞で意味が異なる動詞</li> <li>□ 動名詞を含む慣用表現</li> </ul>			
20章		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 比較(1)</li> <li>□ 原級を用いた比較表現 □ 比較級を用いた比較表現</li> <li>□ 最上級を用いた比較表現</li> </ul>			
21章		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 比較(2)</li> <li>□ 原級⇔比較級⇔最上級 □ 原級を用いた重要表現</li> <li>■ 比較(3)</li> <li>□ 比較級を用いた重要表現 □ 最上級を用いた重要表現</li> </ul>			
22章	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 関係詞</li> <li>□ 関係代名詞による二重限定 □ 関係詞節中に他の節を含む場合 □ 複合関係代名詞・複合関係副詞</li> </ul>				
Further Study4	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 時制の一致と語法</li> <li>□ 時制の一致 □ 時制の一致の例外 □ 語法の種類</li> </ul>				
Further Study7	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 注意すべき語法</li> <li>□ 平叙文を伝える □ 疑問文を伝える □ 命令文を伝える</li> <li>□ 感嘆文や複雑な文を伝える</li> </ul>				
Further Study8					
2 学 期	前半	LESSON 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ランダム形式での文法問題演習</li> <li>■ テーマ毎の自由英作文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法事項を理解する</li> <li>・文法事項を用いて、問題演習を行う</li> <li>・文法事項を用いて、英語で表現をする</li> </ul>	
		LESSON 2			
	LESSON 3 (p2~p13)				
後半	LESSON 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ランダム形式での文法問題演習</li> <li>■ テーマ毎の自由英作文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法事項を理解する</li> <li>・文法事項を用いて、問題演習を行う</li> <li>・文法事項を用いて、英語で表現をする</li> </ul>		
	LESSON 5				
LESSON 6 (p14~p25)					
3 学 期		LESSON 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ランダム形式での文法問題演習</li> <li>■ テーマ毎の自由英作文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法事項を理解する</li> <li>・文法事項を用いて、問題演習を行う</li> <li>・文法事項を用いて、英語で表現をする</li> </ul>	
		LESSON 8			
		LESSON 9 (p26~p37)			

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テスト</li> <li>・小テスト</li> <li>・提出物</li> </ul>
------	---------------------------------------------------------------------------------------

学習方法	1学期は「INSPIRE28units」、2学期以降は「CLOVER」を中心に授業を進め、文法の運用能力を伸ばす。コミュニケーション英語Ⅱで学習した文法事項を演習を通して習熟させ、宿題での繰り返し学習により定着させる。
注意事項	・コミュニケーション英語と英語表現の学習内容をリンクさせるようにする。
インフルエンザ等 臨時休校になった 場合の課題	演習プリントを用意し、授業で習ったことの復習・定着をはかる。

平成29年度 高校2年生 英語表現Ⅱ【日大理系】年間指導計画表

教科目(単位数)	高校2年 英語表現Ⅱ(3単位)
年間目標	・英語検定準2級合格率70% ・日大チャレンジ模試標準化得点平均53以上
使用教科書	UNICORN English Expression 2 (文英堂)
使用補助教材	INSPIRE 28units (文英堂)、大学入試 頻出語彙・語法問題550 実戦カビルダー(標準編)、CLOVER 英文法・語法 ランダム演習(入試標準)

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1	前 半	Further Study5 Further Study9 12章 Further Study6 28章 Further Study1 Further Study3 28章	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 注意すべき仮定法</li> <li>□ 仮定法現在 □ ifの省略</li> <li>□ 文中の語句、分詞、不定詞が表す仮定</li> <li>■ 各種構文(1)</li> <li>□ いろいろな否定表現 □ 強調・倒置</li> <li>■ 接続詞</li> <li>□ 等位接続詞の用法 □ 名詞節を含む構文</li> <li>□ 副詞節を含む構文</li> <li>■ 注意すべき接続詞</li> <li>□ 等位接続詞nor, for, so, yet □ whether節 / if節</li> <li>□ 文中の語句、分詞、不定詞が表す仮定</li> <li>■ 受動態(2)</li> <li>□ 否定文・疑問文の受動態 □ 受動態と文型</li> <li>□ 群動詞の受動態</li> <li>■ 注意すべき受動態</li> <li>□ 動作を表す受動態と状態を表す受動態</li> <li>□ 受動態が好まれる場合 □ 注意が必要な受動態</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 刀詞を含む表現</li> <li>□ There + V+ S + 分詞 □ &lt;with + (代)名詞 + 分詞&gt;の構文</li> <li>□ 分詞を含む慣用表現</li> <li>■ 疑問詞</li> <li>□ 疑問代名詞 □ 疑問副詞 □ 間接疑問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法事項を理解する</li> <li>・文法事項を用いて、問題演習を行う</li> <li>・文法事項を用いて、英語で表現をする</li> </ul>
		後 半	17章 Further Study2 Further Study10 20章 21章 22章 Further Study4 Further Study7 Further Study8	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 動名詞</li> <li>□ 動名詞の用法 □ 動名詞の意味上の主語</li> <li>□ 動名詞のいろいろな形(「時」の表し方/受動態/否定形)</li> <li>■ 動名詞と不定詞など</li> <li>□ 動名詞を目的語にする動詞/不定詞を目的語にする動詞</li> <li>□ 目的語が動名詞と不定詞で意味が異なる動詞</li> <li>□ 動名詞を含む慣用表現</li> <li>■ 各種構文(2)</li> <li>□ 省略・挿入・同格</li> <li>□ 名詞表現・無生物主語</li> <li>■ 比較(1)</li> <li>□ 原級を用いた比較表現 □ 比較級を用いた比較表現</li> <li>□ 最上級を用いた比較表現</li> <li>■ 比較(2)</li> <li>□ 原級⇔比較級⇔最上級 □ 原級を用いた重要表現</li> <li>■ 比較(3)</li> <li>□ 比較級を用いた重要表現 □ 最上級を用いた重要表現</li> <li>■ 関係詞</li> <li>□ 関係代名詞による二重限定 □ 関係詞節中に他の節を含む場合 □ 複合関係代名詞・複合関係副詞</li> <li>■ 時制の一致と語法</li> <li>□ 時制の一致 □ 時制の一致の例外 □ 語法の種類</li> <li>■ 注意すべき語法</li> <li>□ 平叙文を伝える □ 疑問文を伝える □ 命令文を伝える</li> <li>□ 感嘆文や複雑な文を伝える</li> </ul>
2	前半	LESSON 1 LESSON 2 LESSON 3 (p2～p13)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ランダム形式での文法問題演習</li> <li>■ テーマ毎の自由英作文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法事項を理解する</li> <li>・文法事項を用いて、問題演習を行う</li> <li>・文法事項を用いて、英語で表現をする</li> </ul>
	後半	LESSON 4 LESSON 5 LESSON 6 (p14～p25)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ランダム形式での文法問題演習</li> <li>■ テーマ毎の自由英作文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法事項を理解する</li> <li>・文法事項を用いて、問題演習を行う</li> <li>・文法事項を用いて、英語で表現をする</li> </ul>
3	学期	LESSON 7 LESSON 8 LESSON 9 (p26～p37)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ランダム形式での文法問題演習</li> <li>■ テーマ毎の自由英作文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法事項を理解する</li> <li>・文法事項を用いて、問題演習を行う</li> <li>・文法事項を用いて、英語で表現をする</li> </ul>

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テスト</li> <li>・小テスト</li> <li>・提出物</li> </ul>
------	---------------------------------------------------------------------------------------

学習方法	1学期は「INSPIRE28units」、2学期以降は「CLOVER」を中心に授業を進め、文法の運用能力を伸ばす。コミュニケーション英語Ⅱで学習した文法事項を演習を通して習熟させ、宿題での繰り返し学習により定着させる。
注意事項	・コミュニケーション英語と英語表現の学習内容をリンクさせるようにする。
インフルエンザ等 臨時休校になった 場合の課題	演習プリントを用意し、授業で習ったことの復習・定着をはかる。

平成29年度 高校2年生 英語表現Ⅱ【難関大理系】年間指導計画表

教科目(単位数)	高校2年 英語表現Ⅱ(4単位)
年間目標	・英語検定準2級合格率100%
使用教科書	UNICORN English Expression 2 (文英堂)
使用補助教材	INSPIRE 28units (文英堂)、大学入試 頻出語彙・語法問題550 実戦カビルダー(発展編)、CLOVER 英文法・語法 ランダム演習(入試発展)

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	28章 Further Study 3 12章 Further Study 1 Further Study 5 Further Study 4 Further Study 7 Further Study 8 Further Study 9 Further Study 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>■疑問詞</li> <li>○ 疑問代名詞/疑問副詞/間接疑問</li> <li>■分詞を含む表現</li> <li>○ There+V+S+分詞/with+代名詞+分詞の構文/分詞を含む慣用表現</li> <li>■受動態(2)</li> <li>○ 否定文・疑問文の受動態/受動態と文型/群動詞の受動態</li> <li>■注意すべき受動態</li> <li>○ 動作を表す受動態と状態を表す受動態/受動態が好まれる場合/注意が必要な受動態</li> <li>■注意すべき仮定法</li> <li>○ 仮定法現在/ifの省略/文中の語句、分詞、不定詞が表す仮定</li> <li>■関係詞</li> <li>○ 関係代名詞による二重限定/関係詞節中に他の節を含む場合</li> <li>○ 複合関係代名詞・複合関係副詞</li> <li>■時制の一致と評法</li> <li>■注意すべき話法</li> <li>○ 平叙文を伝える/疑問文を伝える/命令文を伝える</li> <li>○ 感嘆文や複雑な文を伝える</li> <li>■各種構文(1)</li> <li>○ いろいろな否定表現/強調・倒置</li> <li>■各種構文(2)</li> <li>○ 省略・挿入・同格/名詞表現・無生物主語</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法事項を理解する</li> <li>・文法事項を用いて、問題演習を行う</li> <li>・文法事項を用いて、英語で表現をする</li> </ul>
		後 半	17章 Further Study 2 20章～22章 27章 Further Study 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>■動名詞</li> <li>○ 動名詞の用法/動名詞の意味上の主語/動名詞の色々な形</li> <li>■動名詞と不定詞など</li> <li>○ 動名詞を目的語にする動詞/不定詞を目的語にする動詞</li> <li>○ 目的語が動名詞と不定詞で意味が異なる動詞</li> <li>○ 動名詞を含む慣用表現</li> <li>■比較(1)～(3)</li> <li>○ 原級を用いた比較表現/比較級を用いた比較表現/最上級</li> <li>○ 原級⇔比較級⇔最上級/原級を用いた重要表現</li> <li>○ 比較級を用いた重要表現/最上級を用いた重要表現</li> <li>■接続詞</li> <li>○ 等位接続詞の用法/名詞節を含む構文/副詞節を含む構文</li> <li>■注意すべき接続詞</li> <li>○ 等位接続詞nor,for,so,yet/whether節とif節/It seemsなど</li> </ul>
2 学 期	前 半	LESSON 1 LESSON 2 LESSON 3 (p2～p13)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ランダム形式での文法問題演習</li> <li>■テーマ毎の自由英作文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法事項を理解する</li> <li>・文法事項を用いて、問題演習を行う</li> <li>・文法事項を用いて、英語で表現をする</li> </ul>
		LESSON 4 LESSON 5 LESSON 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ランダム形式での文法問題演習</li> <li>■テーマ毎の自由英作文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法事項を理解する</li> <li>・文法事項を用いて、問題演習を行う</li> <li>・文法事項を用いて、英語で表現をする</li> </ul>
	後 半	LESSON 7 (p14～p29) LESSON 8 LESSON 9 LESSON 10 LESSON 11 (p30～p45)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ランダム形式での文法問題演習</li> <li>■テーマ毎の自由英作文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法事項を理解する</li> <li>・文法事項を用いて、問題演習を行う</li> <li>・文法事項を用いて、英語で表現をする</li> </ul>
3 学 期		LESSON 12 LESSON 13 LESSON 14 LESSON 15 (p46～p61)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ランダム形式での文法問題演習</li> <li>■テーマ毎の自由英作文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法事項を理解する</li> <li>・文法事項を用いて、問題演習を行う</li> <li>・文法事項を用いて、英語で表現をする</li> </ul>

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テスト</li> <li>・小テスト</li> <li>・提出物</li> </ul>
------	---------------------------------------------------------------------------------------

学習方法	1学期終盤までは「INSPIRE28units」、終盤以降は「CLOVER」を中心に授業を進め、文法の運用能力を伸ばす。コミュニケーション英語Ⅱで学習した文法事項を演習を通して習熟させ、宿題での繰り返し学習により定着させる。
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

注意事項	・コミュニケーション英語と英語表現の学習内容をリンクさせるようにする。
------	-------------------------------------

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	演習プリントを用意し、授業で習ったことの復習・定着をはかる。
-----------------------	--------------------------------

平成29年度 高校2年生 英語表現Ⅱ【難関大理系】年間指導計画表

教科目(単位数)	高校2年 英語表現Ⅱ(3単位)
年間目標	・英語検定準2級合格率100%
使用教科書	UNICORN English Expression 2 (文英堂)
使用補助教材	INSPIRE 28units (文英堂)、大学入試 頻出語彙・語法問題550 実戦カビルダー(発展編)、CLOVER 英文法・語法 ランダム演習(入試発展)

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	28章 Further Study 3 12章 Further Study 1 Further Study 5 Further Study 4 Further Study 7 Further Study 8 Further Study 9 Further Study 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>■疑問詞</li> <li>○ 疑問代名詞/疑問副詞/間接疑問</li> <li>■分詞を含む表現</li> <li>○ There+V+S+分詞/with+代名詞+分詞の構文/分詞を含む慣用表現</li> <li>■受動態(2)</li> <li>○ 否定文・疑問文の受動態/受動態と文型/群動詞の受動態</li> <li>■注意すべき受動態</li> <li>○ 動作を表す受動態と状態を表す受動態/受動態が好まれる場合/注意が必要な受動態</li> <li>■注意すべき仮定法</li> <li>○ 仮定法現在/ifの省略/文中の語句、分詞、不定詞が表す仮定</li> <li>■関係詞</li> <li>○ 関係代名詞による二重限定/関係詞節中に他の節を含む場合</li> <li>○ 複合関係代名詞・複合関係副詞</li> <li>■時制の一致と評法</li> <li>■注意すべき話法</li> <li>○ 平叙文を伝える/疑問文を伝える/命令文を伝える</li> <li>○ 感嘆文や複雑な文を伝える</li> <li>■各種構文(1)</li> <li>○ いろいろな否定表現/強調・倒置</li> <li>■各種構文(2)</li> <li>○ 省略・挿入・同格/名詞表現・無生物主語</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法事項を理解する</li> <li>・文法事項を用いて、問題演習を行う</li> <li>・文法事項を用いて、英語で表現をする</li> </ul>
		後 半	17章 Further Study 2 20章～22章 27章 Further Study 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>■動名詞</li> <li>○ 動名詞の用法/動名詞の意味上の主語/動名詞の色々な形</li> <li>■動名詞と不定詞など</li> <li>○ 動名詞を目的語にする動詞/不定詞を目的語にする動詞</li> <li>○ 目的語が動名詞と不定詞で意味が異なる動詞</li> <li>○ 動名詞を含む慣用表現</li> <li>■比較(1)～(3)</li> <li>○ 原級を用いた比較表現/比較級を用いた比較表現/最上級</li> <li>○ 原級⇔比較級⇔最上級/原級を用いた重要表現</li> <li>○ 比較級を用いた重要表現/最上級を用いた重要表現</li> <li>■接続詞</li> <li>○ 等位接続詞の用法/名詞節を含む構文/副詞節を含む構文</li> <li>■注意すべき接続詞</li> <li>○ 等位接続詞nor,for,so,yet/whether節とif節/It seemsなど</li> </ul>
2 学 期	前 半	LESSON 1 LESSON 2 LESSON 3 (p2～p13)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ランダム形式での文法問題演習</li> <li>■テーマ毎の自由英作文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法事項を理解する</li> <li>・文法事項を用いて、問題演習を行う</li> <li>・文法事項を用いて、英語で表現をする</li> </ul>
		LESSON 4 LESSON 5 LESSON 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ランダム形式での文法問題演習</li> <li>■テーマ毎の自由英作文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法事項を理解する</li> <li>・文法事項を用いて、問題演習を行う</li> <li>・文法事項を用いて、英語で表現をする</li> </ul>
	後 半	LESSON 7 (p14～p29) LESSON 8 LESSON 9 LESSON 10 LESSON 11 (p30～p45)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ランダム形式での文法問題演習</li> <li>■テーマ毎の自由英作文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法事項を理解する</li> <li>・文法事項を用いて、問題演習を行う</li> <li>・文法事項を用いて、英語で表現をする</li> </ul>
3 学 期		LESSON 12 LESSON 13 LESSON 14 LESSON 15 (p46～p61)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ランダム形式での文法問題演習</li> <li>■テーマ毎の自由英作文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法事項を理解する</li> <li>・文法事項を用いて、問題演習を行う</li> <li>・文法事項を用いて、英語で表現をする</li> </ul>

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テスト</li> <li>・小テスト</li> <li>・提出物</li> </ul>
------	---------------------------------------------------------------------------------------

学習方法	1学期終盤までは「INSPIRE28units」、終盤以降は「CLOVER」を中心に授業を進め、文法の運用能力を伸ばす。コミュニケーション英語Ⅱで学習した文法事項を演習を通して習熟させ、宿題での繰り返し学習により定着させる。
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

注意事項	・コミュニケーション英語と英語表現の学習内容をリンクさせるようにする。
------	-------------------------------------

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	演習プリントを用意し、授業で習ったことの復習・定着をはかる。
-----------------------	--------------------------------

平成29年度 高校2年生 英語会話 年間指導計画表

教科目(単位数)	英語会話(1単位:週1時間)
年間目標	英語を使用して、話し手の意向などを聞き取る能力を養うとともに、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育
使用教科書	啓林館『REVISED/ Sailing Oral Communication I 』
使用補助教材	毎回、ネイティブの先生が授業用補助プリントを準備し、教科書のリスニング内容を補足・拡充すると同時に、ディクテーション用に使用する。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	Show & Tell <b>Lesson6</b> May I Help You? *Sound Practice * Plus One Listening	(紹介文を作る・発表する)  (ショッピング/情報を得る)  【SP】 母音 【POL】 コマーシャル	・発表の仕方 Hello, everybody. Today, I'm going to talk about - ・買い物をする Can I try it on? I'm just looking, thank you. Do you have one in red? I'll pay by cash.
	後 半	<b>Lesson7</b> You Look Nice in That Dress. *Sound Practice *Plus One Listening	<パーティー> Parties 【SP】 子音 【POL】 面接後の話し合い	・ほめる [Complimenting] You look nice in that dress! That's wonderful. ・描写する [Describing] He wears glasses. She seems friendly.
2 学 期	前 半	<b>Lesson 8</b> I'm Not Feeling Well  *Sound Practice *Plus One Listening	<病院> Hospitals  【SP】 つながる音 【POL】 ニュース	・体調を述べる [Describing health conditions] I have a slight headache. I feel chilly. I sneeze a lot. ・助言する[Giving advice] You'd better hurry up.
	後 半	<b>Lesson 9</b> I Want to be a Diplomat *Sound Practice <b>Lesson10</b> Do You Share the House? * Plus One Listening	<職業> Occupations 【SP】 変わる音・聞こえなくなる音  (家事) Housework 【POL】 新聞広告に応募する・講義	・未来について述べる[ Talking about the future ] What do you want to ... in the future? ・希望を述べる[Expressing hope ] I have a dream of ... . I'd like to ... . ・意見を述べる[Expressing opinions] I wouldn't mind ... ing.
3 学 期		*Listening Test *Song <b>Unit 3</b> <b>Expressing Opinions</b>  <b>Presenting Opinions</b>	いろいろな場面の英語を聞く  (意見の表明)  (意見の発表)	意見を言う[To state your opinion ] I think [believe/ don't think ~]. ・賛成する[Agreeing ] I agree with you. That's right. I think that's true. ・反対する[Disagreeing ] I don't agree with you. I don't think so.

評価方法	ネイティブの先生が作成したリスニングの問題(60点),日本人教員が作成した筆記試験(30点),スピーキングテスト(10点)とで総合的に評価する。
------	--------------------------------------------------------------------------

学習方法	原則として1回の授業(50分)内に、ペアワーク等のアクティビティーを入れ、生徒が活動する時間を設ける。NET(Native English Teacher)とJET(Japanese English Teacher)によるTT(Team Teaching)による学習となる。
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

注意事項	「コミュニケーション能力を養う事」を目標にしている為、授業時間内でのアクティビティ参加の姿勢が、目標達成の成否の鍵を握っている点是否めない。よって、授業への積極的な参加が求められる。
------	---------------------------------------------------------------------------------------------

インフルエンザ等臨時休校になった場合の課題	各レッスンのSTARTと KEY EXPRESSIONSを完成させ、最低10回は音読し、基本的な表現を暗唱する。教科書の他にテレビ、ラジオの会話講座を有効に利用する。出来れば、家族に協力を仰ぎ、実際に英会話の模擬練習をしてもらう。
-----------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------